

令和5年8月18日

山口県教育委員会会議議案

山口県教育委員会

番号	件名	主管課	
2	令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について	義務教育課	p 1

令和5年度

全国学力・学習状況調査結果について

令和5年8月

山口県教育庁義務教育課

目 次

1	調査の概要	—————	P	1
2	教科に関する結果	—————	P	2
	(1) 全体の結果	P	2
	(2) 各教科の結果	P	2
	領域別平均正答率	P	4
	正答数分布	P	7
	設問別正答率	P	10
	(3) 具体的な問題と解答状況	P	16
3	質問紙調査の結果	—————	P	36
	(1) 児童生徒質問紙	P	36
	(2) 学校質問紙	P	52
4	学力向上に向けた今後の取組	—————	P	68

1 調査の概要

(1) 目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査期日

令和5年4月18日(火)

※中学校英語については、「聞くこと」「書くこと」「読むこと」の調査が4月18日(火)に紙で、「話すこと」の調査が4月18日(火)～5月26日(金)の中で文部科学省が指定した日にオンラインで実施。

(3) 調査の方法

悉皆調査

(4) 調査を実施した学校数・児童生徒数

学 年	学 校 数	児 童 生 徒 数
小学校第6学年	公立小学校 266校	児 童 10,097人
	特別支援学校 3校	
	計 269校	
中学校第3学年	公立中学校 138校	生 徒 9,833人
	中等教育学校 1校	
	特別支援学校 4校	
	計 143校	

(5) 調査の内容

① 教科に関する調査(小学校…国語、算数 中学校…国語、数学、英語)

・調査問題では、下記1)と2)を一体的に問う。

- 1)身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- 2)知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

ア 児童生徒に対する調査(児童生徒質問紙)

【小学校…59項目 中学校…72項目】

イ 学校に対する調査(学校質問紙)

【小学校…81項目 中学校…89項目】

2 教科に関する結果

(1) 全体の結果

- 小学校では、国語は全国平均と同程度、算数は全国平均を下回るという結果であった。
- 中学校では、国語は全国平均と同程度、数学は全国平均を上回り、英語は全国平均を下回るという結果であった。

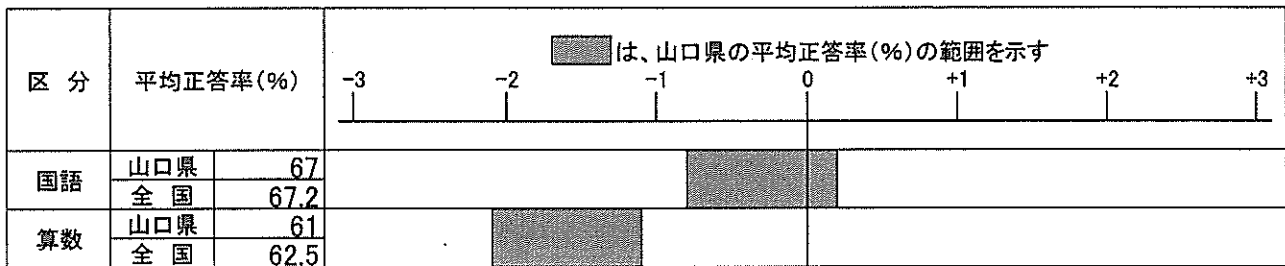
(2) 各教科の結果

①全国と本県の平均正答数、平均正答率の比較

※平成29年度から、都道府県等における各教科の平均正答率は整数値で提供されているため、全国平均との差を範囲で示している。

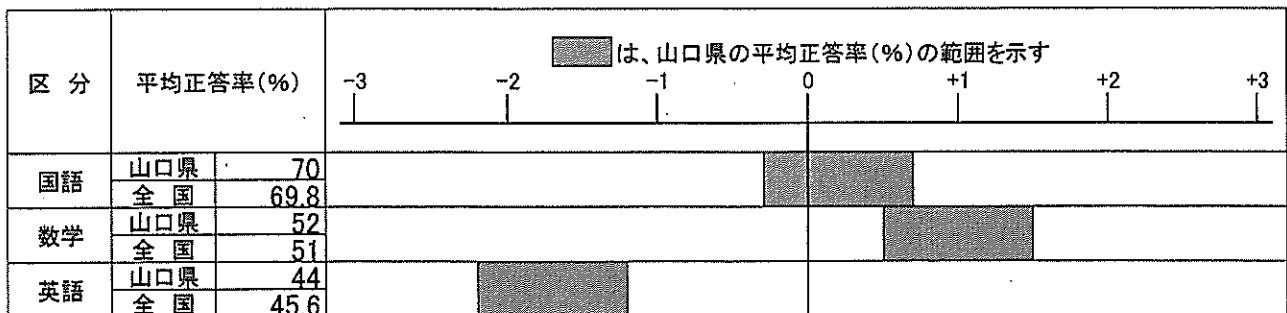
【小学校】

	平均正答数／設問数		平均正答率 (%)	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国 語	9.4／14	9.4／14	67	67.2
算 数	9.8／16	10.0／16	61	62.5



【中学校】

	平均正答数／設問数		平均正答率 (%)	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国 語	10.5／15	10.5／15	70	69.8
数 学	7.7／15	7.6／15	52	51.0
英 語	7.4／17	7.7／17	44	45.6



〔参考〕過去の調査での平均正答数と平均正答率

○令和4年度

小学校	平均正答数／設問数		平均正答率 (%)	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国 語	9.1／14	9.2／14	65	65.6
算 数	10.0／16	10.1／16	63	63.2
理 科	10.9／17	10.8／17	64	63.3

中学校	平均正答数／設問数		平均正答率 (%)	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国 語	9.8／14	9.7／14	70	69.0
数 学	7.2／16	7.2／16	52	51.4
理 科	10.4／21	10.4／21	49	49.3

○令和3年度

小学校	平均正答数／設問数		平均正答率 (%)	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国 語	9.0／14	9.1／14	64	64.7
算 数	11.1／16	11.2／16	69	70.2

中学校	平均正答数／設問数		平均正答率 (%)	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国 語	9.1／14	9.0／14	65	64.6
数 学	9.2／16	9.1／16	58	57.2

※令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う臨時休業等の影響により中止

○平成31年度

小学校	平均正答数／設問数		平均正答率 (%)	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国語	9.5／14	8.9／14	68	63.8
算数	9.4／14	9.3／14	67	66.6

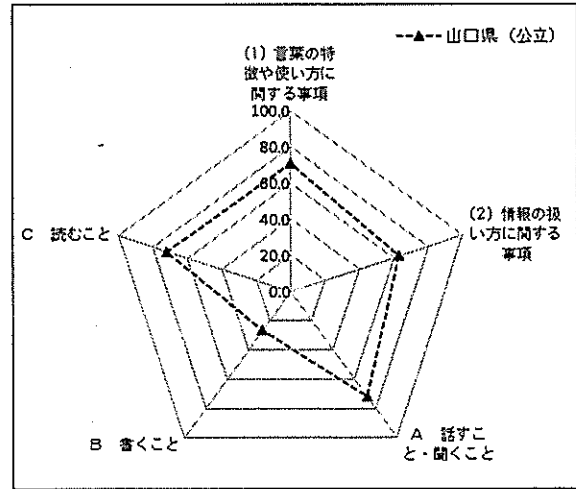
中学校	平均正答数／設問数		平均正答率 (%)	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国語	7.4／10	7.3／10	74	72.8
数学	9.8／16	9.6／16	61	59.8
英語	11.6／21	11.8／21	55	56.0

②領域別平均正答率

【小学校 国語】

「読むこと」については、全国平均を上回り、「書くこと」については、全国平均と同じであった。「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」及び「話すこと・聞くこと」については、全国平均を下回った。

全体	問題数	平均正答率(%)		全国との差
		山口県	全国	
言葉の特徴や使い方に関する事項	5	70.9	71.2	-0.3
情報の扱い方に関する事項	2	63.3	63.4	-0.1
我が国の言語文化に関する事項	0			
話すこと・聞くこと	3	71.8	72.6	-0.8
書くこと	1	26.7	26.7	0.0
読むこと	3	71.6	71.2	+0.4

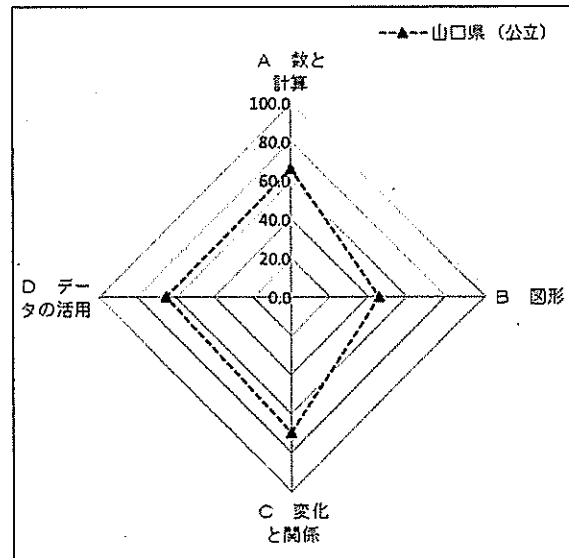


【小学校 算数】

すべての領域について、全国平均を下回った。

全体	問題数	平均正答率(%)		全国との差
		山口県	全国	
数と計算	6	66.2	67.3	-1.1
図形	4	45.7	48.2	-2.5
測定	0			
変化と関係	4	69.4	70.9	-1.5
データの活用	3	64.6	65.5	-0.9

※ 1問ほど区分の重なりがある。

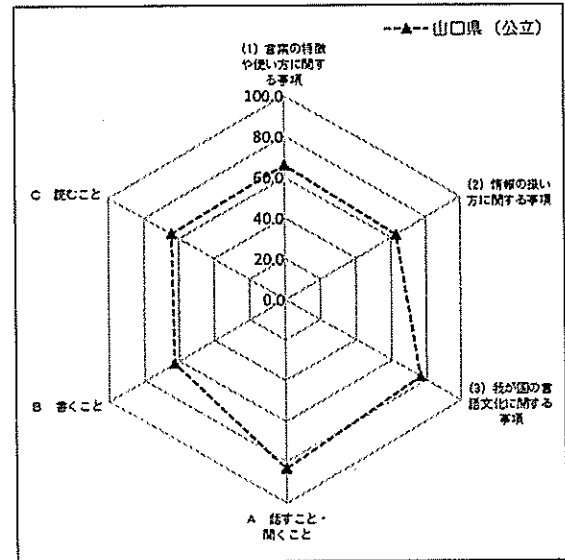


【中学校 国語】

「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」「読むこと」については、全国平均を上回った。「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「書くこと」については、全国平均を下回った。

全体	問題数	平均正答率(%)		全国との差
		山口県	全国	
言葉の特徴や使い方に関する事項	2	66.1	67.5	-1.4
情報の扱い方に関する事項	2	62.7	63.4	-0.7
我が国の言語文化に関する事項	3	76.3	74.7	+1.6
話すこと・聞くこと	3	83.3	82.2	+1.1
書くこと	2	62.8	63.2	-0.4
読むこと	4	64.5	63.7	+0.8

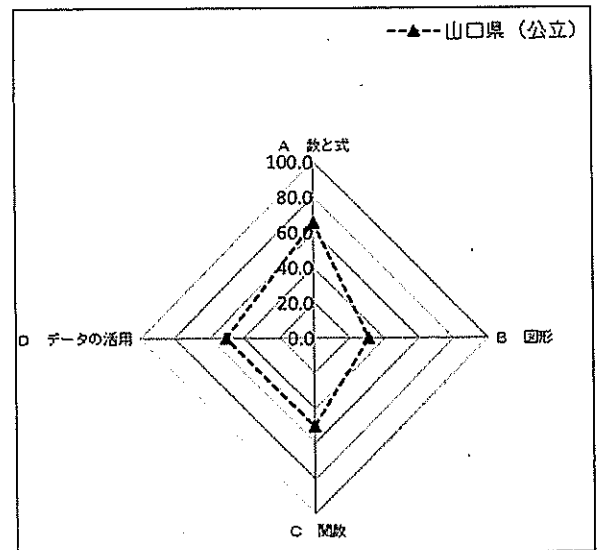
※ 1問ほど区分の重なりがある。



【中学校 数学】

「数と式」「データの活用」については、全国平均を上回った。「図形」「関数」については、全国平均を下回った。

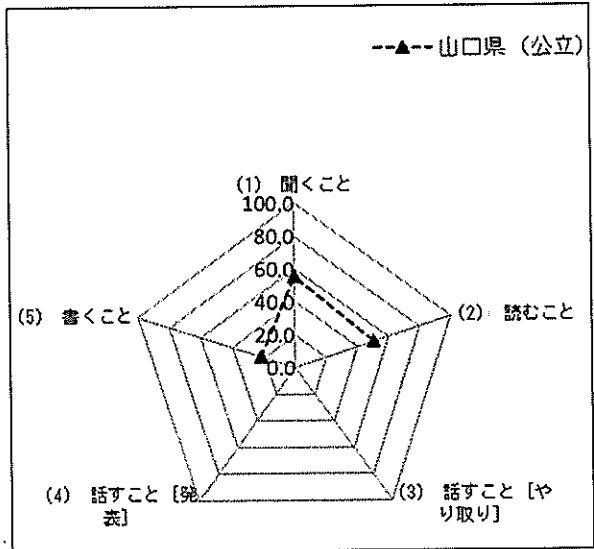
全体	問題数	平均正答率(%)		全国との差
		山口県	全国	
数と式	5	65.4	63.0	+2.4
図形	3	31.0	33.2	-2.2
関数	4	50.5	51.2	-0.7
データの活用	3	50.5	48.5	+2.0



【中学校 英語】

すべての領域について、全国平均を下回った。

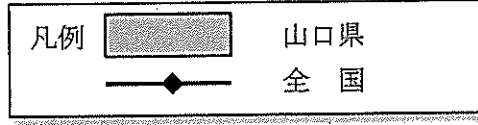
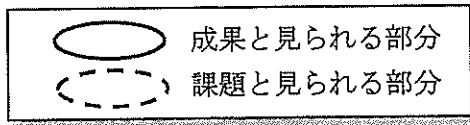
	問題数	平均正答率(%)		全国との差
		山口県	全国	
全体	17			
聞くこと	6	55.7	58.4	-2.7
読むこと	6	50.3	51.2	-0.9
話すこと【やり取り】				
話すこと【発表】				
書くこと	5	21.7	23.4	-1.7



③正答数分布

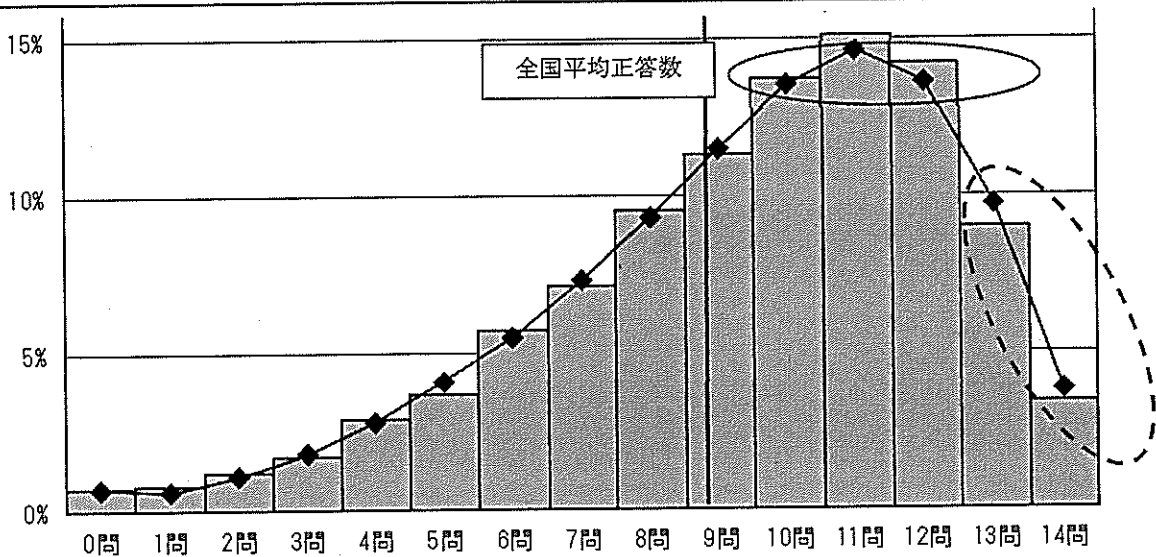
[グラフについて]

横軸は児童生徒が正答した問題数、縦軸は正答数ごとの児童生徒の割合(%)を示している。



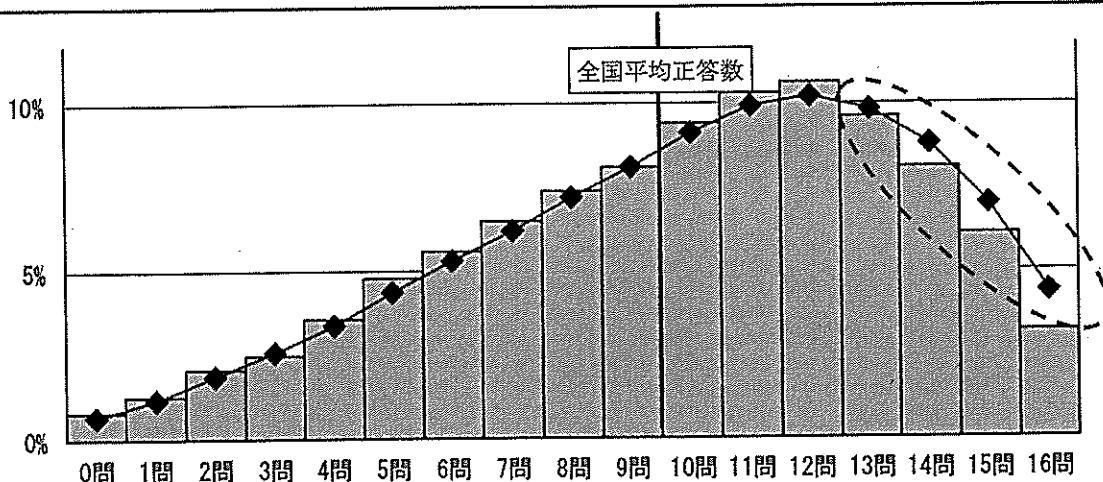
【小学校 国語】(平均正答率 山口県 67%、全国 67.2%)

全国と同様の分布状況にあるが、全国と比べ、全問正解の児童の割合が低い。また、全国と比べ、正答数が10～12問の児童の割合が高い。



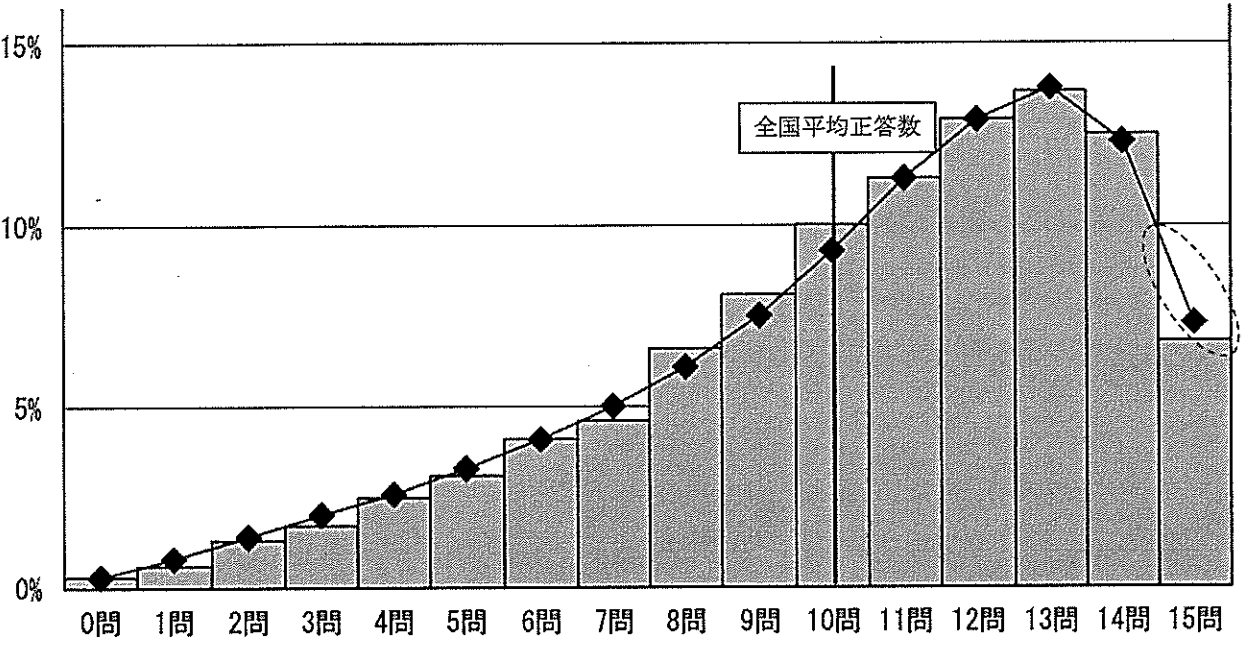
【小学校 算数】(平均正答率 山口県 61%、全国 62.5%)

全国と同様の分布状況にあるが、全国と比べ、正答数の多い児童の割合が低い。



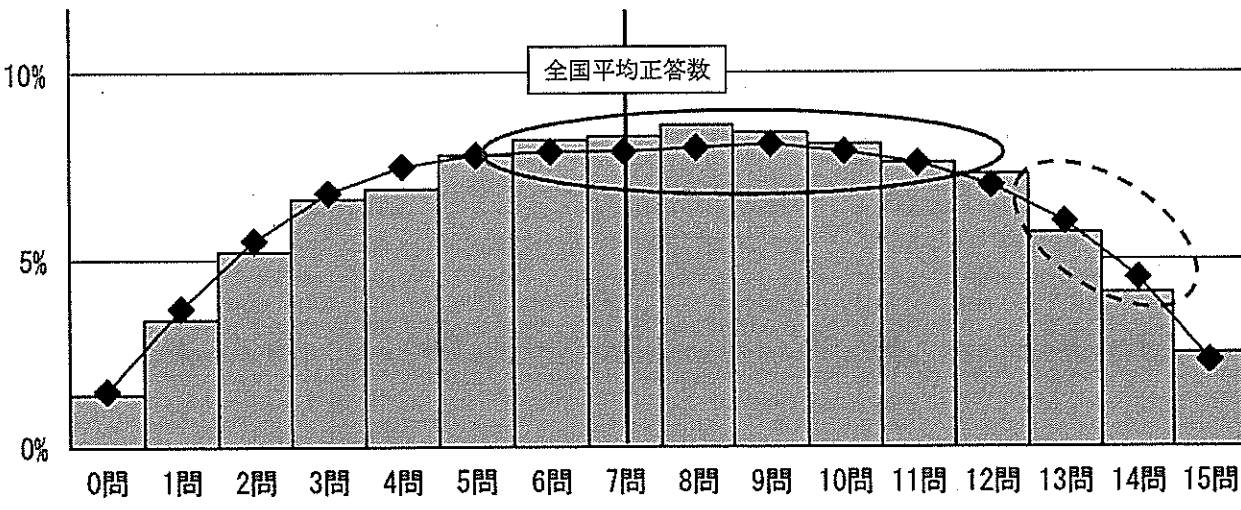
【中学校 国語】（平均正答率 山口県 70%、全国 69.8%）

全国と同様の分布状況にあるが、全国と比べ全問正解の生徒の割合が低い。



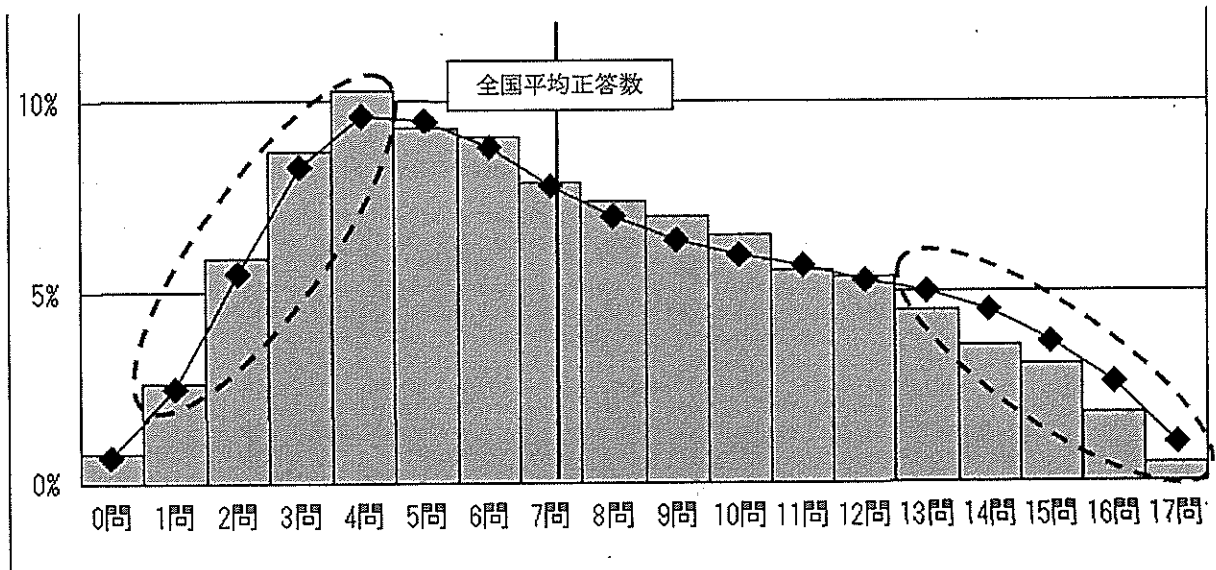
【中学校 数学】（平均正答率 山口県 52%、全国 51.0%）

全国と同様の分布状況にあるが、全国と比べ、正答数の多い生徒の割合が低い。また、平均正答数付近の生徒の割合が高い。



【中学校 英語】（平均正答率 山口県 44%、全国 45.6%）

全国と同様の分布状況にあるが、全国と比べ、正答数の多い生徒の割合が低く、正答数の少ない生徒の割合が高い。



④設問別正答率

小学校 国語

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容						評価の観点	問題形式	正答率(%)		解答率(%)	
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等					山口県(公立)	全国(公立)	山口県(公立)	全国(公立)
			(1)言葉の特徴や使い方に關する事項	(2)情報の扱い方に關する事項	(3)我が國の言語文化に關する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと						
1-1	米作りのときに記録していた【カード②】と【カード③】の下線部の関係として適切なものを選択する	原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	5-6 ア								64.3	64.7	1.9	1.8
1-2	【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる				5-6 エ		○		○	26.7	26.7	6.8	7.1
1-3 (1)ア	【川村さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す(むがひ)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができるかどうかをみる	5-6 エ					○		○	52.8	52.8	4.4	4.8
1-3 (1)ウ	【川村さんの文章】の下線部ウを、漢字を使って書き直す(むがひん)		5-6 エ					○		○	70.7	72.6	6.3	6.7
1-3 (2)イ	【川村さんの文章】の下線部イを、送り仮名に気を付けて書き直したのとして適切なものを選択する(くらべて)	送り仮名に注意して、漢字を文中で正しく使うことができるかどうかをみる	5-6 ウ					○		○	93.4	93.1	0.9	1.0
1-4	【川村さんの文章】の特徴の説明として適切なものを選択する	文章の種類とその特徴について理解しているかどうかをみる	5-6 カ					○		○	79.4	79.8	2.3	2.0
2-1	【資料1】と【資料2】に書かれている内容として適切なものを選択する	目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができるかどうかをみる				3-4 ウ		○		○	90.4	90.0	1.5	1.2
2-2	【相田さんのメモ】の空欄に当てはまる内容として適切なものを選択する	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる				5-6 ウ		○		○	66.8	67.4	1.8	1.4
2-3	相田さんが【資料3】の情報をどのように整理しているかについて説明したのとして適切なものを選択する	情報と情報との関係付けの仕方、節などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる	5-6 イ					○		○	62.3	62.0	2.0	1.6
2-4	資料を読み、運動と食事の両方について分かったことをもとに、自分ができそうなことをまとめて書く	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる				5-6 エ		○		○	57.6	56.2	8.8	8.5
3-1 (1)	【インタビューの様子】の傍線部ア(～ということだと思いますが、合っていますか。)のように質問をした理由として適切なものを選択する	必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができるかどうかをみる				3-4 エ		○		○	73.4	75.6	4.4	3.7
3-1 (2)	【インタビューの様子】の傍線部イ(～というのは、どのような話ですか。)のように質問をした理由として適切なものを選択する		3-4 エ					○		○	72.6	74.0	4.8	4.1
3-2	寺田さんと山本さんが、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことをまとめて書く	目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	5-6 エ					○		○	69.5	70.2	15.0	14.3
3-3	敬語の使い方をまとめた【谷さんのノートの一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する	日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる	5-6 キ					○		○	58.2	57.6	10.8	9.5

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
			A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	山口県(公立)	全国(公立)	山口県(公立)	全国(公立)
1(1)	5脚の椅子を重ねたときの高さを求める	伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができるかどうかをみる				4(1) 7(7)			○		○		93.6	93.6	0.9	0.8	
1(2)	椅子の数が2倍になっても、高さは2倍になっていないことについて、表の表を使って書く	伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることができるかどうかをみる				5(1) 4(7)			○		○		88.4	88.6	0.7	1.0	
1(3)	椅子4脚の重さが7kgであることを基に、48脚の重さの求め方と答えを書く	伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる				5(1) 7(7) 5(2) 4(7)			○		○		54.5	55.5	4.1	3.4	
1(4)	全部の椅子の数を求めるために、 50×40 を計算する	一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をすることができるかどうかをみる	3(3) 7(7)						○		○		81.6	80.8	1.3	1.2	
2(1)	テープを2本の直線で切ってきた四角形の名前と、その四角形の特徴を選ぶ	台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる		4(1) 7(4)					○		○		56.3	59.8	0.7	0.7	
2(2)	テープを折ったり切ったりしてできた四角形の名前を書く	正方形の意味や性質について理解しているかどうかをみる		2(1) 7(4) 4(1) 7(7)					○		○		85.8	87.2	3.0	2.9	
2(3)	切った開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときAの角の大きさを書く	正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる		3(1) 7(7) 5(1) 7(4)					○		○		22.6	24.9	4.0	3.7	
2(4)	テープを直線で切ってきた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く	高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる		3(2) 4(7)					○		○		18.2	20.8	4.6	4.0	
3(1)	2種類の辞典を全部並べた長さを求める二つの式について、それぞれのようなことを表しているのかを選ぶ	()を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができるかどうかをみる	4(6) 4(7)						○		○		70.9	70.3	1.4	1.4	
3(2)	3種類のファイル23人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述し、全部のファイルを例に入れることができるかどうかを判断する	示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できるかどうかをみる	3(6) 7(4) 4(1) 7(7) 7(2) 4(7)						○		○		55.6	56.7	4.8	4.0	
3(3)	$(151+49) \times 3$ と $151 \times 3 + 49 \times 3$ を計算したり、分配法則を用いたりして答えを求める	加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができるかどうかをみる	4(6) 7(7) 4(7) 7(7)						○		○		74.0	72.4	2.6	2.5	
3(4)	$66 \div 3$ の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位に当たる式を選ぶ	(2位数) \div (1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考慮することができるかどうかをみる	3(4) 4(7) 4(1) 7(7)						○		○		41.6	47.6	4.2	3.9	
4(1)	示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ	百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる				5(2) 7(4)			○		○		41.3	46.0	3.2	2.4	
4(2)	運動カードから、運動した時間の合計が30分以上である日数を求める	「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができるかどうかをみる	4(2) 7(4)					3(1) 7(7)	○		○		73.7	75.7	5.1	4.3	
4(3)	二つのグラフから、30分以上の運動をした日数が「1日」と答えた人数に注目して、分かることを書く	示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる						3(1) 7(4) 4(7)		○	○		56.7	56.2	14.5	13.8	
4(4)	二次元の表から、読み取ったことの根拠となる数の組み合わせを選ぶ	二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる						4(1) 7(7)	○		○		63.4	64.6	6.6	4.9	

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容						評価の観点	問題形式	正答率(%)		無解答率(%)				
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等					選択式	短答式	記述式	山口県(公立)	全国(公立)	山口県(公立)	全国(公立)
			(1) 言葉の特徴や使い方に關する事項	(2) 情報の扱い方に關する事項	(3) 我が国の言語文化に關する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと									
1一	インタビューの前に準備したメモについて説明したものとして適切なものを選択する	目的や場面に応じて質問する内容を検討することができるかどうかをみる				1ア			○	○	○	88.1	67.5	0.1	0.1		
1二	インターネットの記事を読んで気付いた点として適切なものを選択する	意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる		1ア					○	○	○	64.5	65.1	0.1	0.2		
1三	相手の話を受けて発した質問について、述べ方の工夫とその意図を説明したものとして適切なものを選択する	話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することができるかどうかをみる				1エ			○	○	○	76.7	76.6	0.3	0.2		
1四	インタビューのまとめとしてどのようなことを述べるのか、自分の考えを書く	聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができるかどうかをみる				1エ			○	○	○	85.1	82.5	8.6	10.8		
2一	「落胆する」の意味として適切なものを選択する	事象や行為、心情を表す語句について理解しているかどうかをみる	1ウ						○	○	○	91.1	91.1	0.1	0.2		
2二	二つの文章に共通する表現の効果を説明したものとして適切なものを選択する	視点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみる					2エ		○	○	○	62.6	63.0	0.3	0.4		
2三	それぞれの文章で述べられている「読書の楽しみ」として適切なものを選択する	文章の中心的部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することができるかどうかをみる					1ア		○	○	○	75.1	74.2	0.2	0.3		
2四	自分がこれからのように本を読みたいかについて、読んだ文章を参考にして、知識や経験に触れながら書く	文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる			2エ			2オ	○	○	○	69.6	67.6	3.3	3.9		
3一	レポートの下書きの一部について、文の一部を直す意図として適切なものを選択する	読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる					1エ		○	○	○	53.8	54.3	0.5	0.6		
3二	漢字を書く(おし量って)	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる	2ウ						○	○	○	41.2	49.9	10.4	10.7		
3三	「【判じ絵】とは何か」と見出しを付けた部分について、内容のまとまりで文章が二つに分かれる箇所を選択し、後半のまとまりに付ける見出しを書く	具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる		2ア					○	○	○	60.9	61.9	2.3	2.1		
3四	「【判じ絵】の解説の面白さ」と見出しを付けた部分に具体例として示す「判じ絵」を選択し、その解説の仕方を書く	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる					1ウ		○	○	○	71.8	72.1	10.2	10.2		
4一	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す(いひける)	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる				1ア			○	○	○	86.6	82.5	2.8	3.5		
4二	原文の中の語句に対応する言葉を現代語で書かれた文章から抜き出す(いと)	古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉えることができるかどうかをみる				2イ			○	○	○	72.7	74.1	4.4	4.3		
4三	現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く	文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる						1エ	○	○	○	50.6	50.0	20.1	20.7		

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		
			A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	山口県(公立)	全国(公立)	山口県(公立)	全国(公立)	
1	-5、0、3、4、7、9の中から自然数を全て選ぶ	自然数の意味を理解しているかどうかをみる	$\frac{1(1)}{7(7)}$					○			○			52.2	46.1	0.1	0.1
2	$12(x/4 + y/6)$ を計算する	数と整式の乗法の計算ができるかどうかをみる	$\frac{2(1)}{7(7)}$					○			○			81.2	80.5	3.3	4.0
3	空間における平面が1つに決まる場合について、正しい記述を選ぶ	空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解しているかどうかをみる		$\frac{1(2)}{7(7)}$				○			○			28.0	30.4	1.1	0.8
4	yがxに反比例し、比例定数が3のとき、xの値とそれに対応するyの値について、正しい記述を選ぶ	反比例の意味を理解しているかどうかをみる			$\frac{2(1)}{7(7)}$			○			○			43.4	42.9	0.4	0.5
5	女子50m自由形の記録の、最小の階級から29.00秒以上30.00秒未満の階級までの累積度数を求める	累積度数の意味を理解しているかどうかをみる				$\frac{1(1)}{7(7)}$		○			○			50.6	46.1	9.6	11.0
6(1)	はじめの数が11のとき、はじめの数にかける数が2、たす数が3のときの計算結果を求める	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかどうかをみる	$\frac{1(1)}{7(7)}$					○			○			89.6	88.9	2.2	2.4
6(2)	はじめの数にかける数が2、たす数が6ならば、計算結果はいつでも3の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる	$\frac{2(1)}{7(7)}$					○			○			62.4	58.8	9.4	10.6
6(3)	はじめの数にかける数がいくつ、たす数がいくつであれば、計算結果はいつでも4の倍数になるかを説明する	結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を思いだし、説明することができるかどうかをみる	$\frac{2(1)}{7(7)}$					○			○			41.5	40.9	23.6	24.7
7(1)	1961年~1975年の四分位範囲を求める	四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる				$\frac{2(1)}{7(7)}$		○			○			67.2	65.7	5.2	5.6
7(2)	「2006年~2020年の休業日は、1991年~2005年の休業日より遅くなっている傾向にある」と主張することができる理由を、箱ひげ図の箱に着目して説明する	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる				$\frac{2(1)}{7(7)}$		○			○			33.5	33.6	22.2	22.9
8(1)	晴天大学が駅前を通じた時間と新緑大学が駅前を通じた時間の差について、グラフのどの2点のx座標の差として表れるかを書く	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる				$\frac{2(1)}{7(7)}$		○			○			56.6	57.6	8.3	8.6
8(2)	二人の選手のグラフが直線で表されていること的前提となっている事柄を選ぶ	事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に照して解釈することができるかどうかをみる				$\frac{2(1)}{7(7)}$		○			○			59.8	61.7	0.8	1.1
8(3)	グラフや式を用いて、新緑大学の選手が晴天大学の選手に追いつくのが、6区スタート地点からおよそ何mの地点になるかを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる				$\frac{2(1)}{7(7)}$		○			○			42.1	42.8	13.1	13.2
9(1)	2つの直線BCと直線AEが平行であることを、三角形の合同を基にして、同位角又は錯角が等しいことを示すことで証明する	ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる	$\frac{2(1)}{7(7)}$					○			○			29.4	32.1	24.8	24.7
9(2)	二等辺三角形でない2つの合同な三角形のときに平行線がかけないことについて、二等辺三角形のときの証明の中から成り立たなくなる式を書く	条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることができるかどうかをみる	$\frac{2(1)}{7(7)}$					○			○			35.7	37.0	13.8	14.2

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
			(1) 聞く/話す	(2) 読む/書く	(3) 話すこと(やり取り)	(4) 話すこと(発表)	(5) 書くこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	山口県(公立)	全国(公立)	山口県(公立)	全国(公立)
1(1)	ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	○					○			○			80.2	79.0	0.1	0.1
1(2)	道案内の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	○					○			○			62.1	64.4	0.1	0.2
1(3)	買物の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	○					○			○			44.4	49.8	0.1	0.2
2	忘れ物に関する情報を得るために自動音声案内を聞き、最も適切な番号を選択する	日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	ア					○			○			56.4	61.1	0.1	0.2
3	バーベキューパーティーについての説明を聞き、質問の答えとして最も適切なものを選択する	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	ア					○			○			37.9	41.2	0.2	0.2
4	水問題についての話を聞き、話し手の最も伝えたい内容を選択する	社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるかどうかをみる	ウ					○			○			53.3	54.8	0.3	0.4
5(1)	ある状況を描写する英文を読み、その内容を最も適切に表しているグラフを選択する	情報を正確に読み取ることができるかどうかをみる		○				○			○			54.8	56.0	0.2	0.3
5(2)	事実や考えが書かれた英文を読み、考えを表している英文を選択する	「事実・情報を伝える」と「考えや意見を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことができるかどうかをみる		○				○			○			63.3	64.5	0.3	0.3
6	友達からのメールを読み、相手が示した条件に合うイベントとして最も適切なものを選択する	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる		ア					○		○			35.3	35.9	0.2	0.3
7(1)	図書館について書かれた英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選択する	文と文との関係を正確に読み取ることができるかどうかをみる		○				○			○			58.3	59.8	0.3	0.3
7(2)	図書館について書かれた英文を読み、その概要として最も適切なものを選択する	日常的な話題について、短い文章の概要を捉えることができるかどうかをみる		イ					○		○			32.7	34.7	0.8	0.7
8(1)	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の最も伝えたい内容を選択する	社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることができるかどうかをみる		ウ					○		○			57.4	66.1	0.8	0.8
8(2)	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く	社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる					ウ		○		○	16.4	19.5	30.3	28.3		
9(1) ①	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる	未来表現 (be going to) の肯定文を正確に書くことができるかどうかをみる					ア	○			○			39.2	40.4	7.0	6.6
9(1) ②	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる	疑問詞を用いた一般疑問の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができるかどうかをみる					ア	○			○			18.4	20.9	11.6	10.9
9(2)	メールの英文を依頼する表現に書き換える	「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができるかどうかをみる					ア	○			○			28.5	29.0	25.5	24.5
10	学校生活(行事や部活動など)の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く	日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる					イ	○			○			5.9	7.4	21.3	21.4

(3) -① 具体的な問題と解答状況 一小学校国語一

○相当数の児童ができている点

○ 「送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うこと」について、正答率が高い。

1 三 (2)

雑草の量について、農家の田んぼとくらべてみました。

- 1 くらべて
- 2 比べて
- 3 比て

(2) その番号を書き直したものととして適切なものを、次の1から3までの中から一つ選んで、部イを書き直したものととして適切なものを、次の1から3までの中から一つ選んで、その番号を書き直しよう。

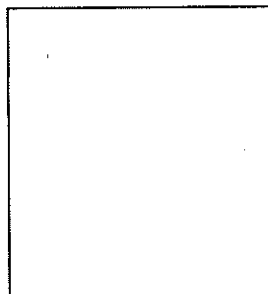
【川村さんの文章】

学校の田んぼで取り組んだ米作りの問題点とその解決方法

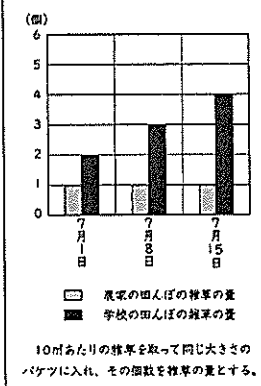
今年の米作りでは、たくさんのお米をしゅうかくすることができました。しゅうかくまでに、いくつかの問題がありました。その中でも特に伝えたい問題点とその解決方法について説明します。

5月下じゅんに学校の田んぼになえを植えました。6月の終わりまで、週に1回、グループの3人で雑草取りを続けたのですが、アいがいに雑草が生えてきて、とてもこまりました。そこで、雑草の量について、農家の田んぼとくらべてみました。ウきかんは7月1日から15日までです。

右のグラフは、その結果をもとにして作ったものです。



農家の田んぼと学校の田んぼの雑草の量



このようなことに取り組み、9月の下じゅんにお米をしゅうかくすることができました。

【正答】 1 三 (2) 2

	正答率
山口県	93.4%
全国	93.1%

○ 「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること」について、正答率が高い。

2 -

【資料2】運動について書かれたパンフレットのページ

運動で健康な体をつくろう！


運動には、筋力や持久力などを高めるほかに、病気への抵抗力を高める効果もあります。また、運動によって気持ちがりフレッシュするなどの効果もあります。

どんな運動をするといいの？


運動をする際、自分に合った運動を選んで行うことが大切です。主な運動の種類には、下のように、軽いジョギングなどの持久力を高める運動や、腹筋運動などの筋力を高める運動があります。そのほかにも、体のやわらかさを高める運動や、たくみな動きを高める運動などがあります。

このような運動は日常生活の中にもあります。例えば、休み時間の外遊び、犬の散歩、階段の上り下り、荷物運びなどです。日常生活の中で体を動かす機会をつくると効果的です。

主に持久力を高める運動の例




軽いジョギング




縄とび(縄けてとぶ)

主に筋力を高める運動の例



腹筋運動



腕立て伏せ

【資料1】運動について書かれた本の一部

運動は、体力の向上につながります。そのため、子供からお年寄りまで過度に運動をすることが大切だと書かれています。私たちが日ごろ行っている運動には、いくつかの種類があります。例えば、体にたくさんの酸素を取り入れながら続けることで持久力を高める運動や、時間的に大きな力を出すことで筋力の高める運動などです。生活の中に自分が好きな運動を取り入れれば、続けて取り組むことができます。その際は、目的に応じた運動を選ぶとともに、健康状態や体方に合わせて自分のペースで行うことが大切です。

【相田さんの考え】

ぼくは、運動の面から考えてみたい。運動をすると健康にどんないいことがあるのかな。

相田さん

- 1 運動の効果や種類
 - 2 運動の回数や場所
 - 3 運動の場所や種類
 - 4 運動の効果や回数
- 相田さんが選んだ「資料1」と「資料2」に書かれている内容として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

【正答】 2 - 1

	正答率
山口県	90.4%
全国	90.0%

●課題のみられる点

● 「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」について、課題が見られる。

1 二

【川村さんの文章】

学校の田んぼで取り組んだ米作りの問題点とその解決方法

今年の米作りでは、たくさんのお米をしょうかくすることができました。しょうかくまでに、いくつかの問題がありました。その中でも特に伝えたい問題点とその解決方法について説明します。

5月下旬に学校の田んぼにええを植えました。6月の終わりまで、週に1回、グループの3人で雑草取りを続けたのですが、ア い が い に 雑草が生えてきて、とてもこまりました。そこで、雑草の量について、農家の田んぼとウ き かん は 7 月 1 日 から 15 日 まで です。

右のグラフは、その結果をもとにして作ったものです。

日	農家の田んぼの雑草の量 (kg)	学校の田んぼの雑草の量 (kg)
7月1日	2.5	1.5
7月8日	3.0	1.8
7月15日	4.0	2.0

100あたりの雑草を取って同じ大きさのケツに入れ、その量を雑草の量とする。

このようなことに取り組み、9月の下旬にお米をしょうかくすることができました。

川村さんは、選んだカードをもとに、次の「川村さんの文章」の問題点とその解決方法について書こうとしています。あなたが川村さんなら、ア い が い に 学校の米作りに入る内容をどのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましょう。

- 【カード①】

6月24日

 - 思ったより学校の田んぼに雑草が生えてきた。
 - このまま雑草が増えたら米のしょうかくにえいさようするのではないかと心配だ。
- 【カード②】

6月30日

 - 雑草取りをしているが、農家の田んぼには見られないほど、雑草の量が増えてきた。
 - どれくらい増えているのか雑草の量を調べる。
 - 調査方法 週に1回、農家の田んぼと学校の田んぼの雑草を取って、量をくらべる。
 - 調査さかん 7月1日～15日
- 【カード③】

7月19日

 - 学校の田んぼでは、雑草の量に対して雑草取りが足りていないと考えられる。
 - 雑草の量と米のしょうかくの関係について農家の石山さんに話を聞きに行く。
- 【カード④】

7月20日

 - 【農家の石山さんのお話】
 - 雑草に栄養をとられると、米のしょうかくが減る。
 - 雑草が多いと、いねが病気になることがある。
 - 農家は、さまざまな方法で雑草が生えないようにしている。
- 【カード⑤】

7月21日

 - 【学校でできる解決方法】
 - 雑草取りの回数を増やす。
 - 雑草取りの人数を増やす。

川村さんの考え

雑草が増える問題が起きたけれど解決してよかったな。米作りのときに記録していたカードの中から選んだカードをもとに、米作りに興味のある人に向けて問題点とその解決方法を書こう。

川村さん

川村さんは、学校の田んぼで取り組んだ米作りについて文章を書こうとしています。次は、「川村さんの考え」と川村さんが選んだ「カード①」から「カード⑤」です。これらをもとに選んだカードの問いに答えましょう。

【正答例】 1 二

グラフから分かるように、学校の田んぼでは雑草が増え続けていたため、雑草に栄養をとられてしょうかくが減ってしまうかもしれないという問題点がありました。そこで、雑草取りの回数と人数を増やすことにしました。(100字)

Blank writing area for the answer example.

※上の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。
※◆の印から書きましょう。どちらうで行を覚えて、続けて書きましょう。

（条件）

- 学校の米作りの問題点については、「川村さんの文章」のグラフ（農家の田んぼと学校の田んぼの雑草の量）と「カード①」のそれぞれから分かることを書くこと。
- 問題点の解決方法については、「カード②」をもとにして書くこと。
- 六十文字以上、百字以内にとめて書くこと。

	正答率
山口県	26.7%
全国	26.7%

特徴的な誤答

○雑草をぬかないと、いねが病気になってしまったり、米のしゅうかく量が減ってしまったりするので、もっと雑草をぬく人をふやしたり、雑草をぬく期間をふやしたりして、雑草の数を減らしていききました。

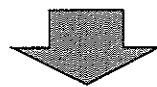


→学校の米作りの問題点について、【カード④】から分かることは書いているが、【川村さんの文章】のグラフから分かることが書かれていない。

○学校の米作りの問題点は、雑草の量が多いことだと思います。だから、その問題点を解決するためには雑草取りの回数を増やし、人数を増やせばいいと思いました。



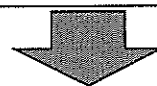
→学校の米作りの問題点について、【川村さんの文章】のグラフから分かることは書いているが、【カード④】から分かることが書かれていない。



このような誤答の子どもは…

米作りの問題点について、グラフか【カード④】のどちらか一方を取り上げて書いていることから、個々の資料の内容を捉えることはできている。

米作りの問題点について、グラフか【カード④】のどちらか一方しか取り上げていないことから、目的に応じて複数の資料を関連付けて読み取り、文章にまとめることに課題があると考えられる。



課題解決に向けて

【課題解決に役立つやまぐちっ子学習プリント】

小学校6年 やまぐちっ子プラス読むこと1

【授業改善の方策】

①複数の資料の関連性をつかませるために、各資料に、概要を表す短い言葉でのタイトルを付けさせることが考えられる。

(例)【カード④】は、「雑草が多いことによる影響」というタイトルが考えられる。そのことから、グラフと【カード④】との、「雑草の増え方—そのことによる影響」という関連性が見えてくる。

②複数の資料を関連付ける視点や関連付けたことによって分かったことのまとめ方は、関連付ける目的に応じて変わってくることから、資料を読む目的を明確にもたせることが大切である。

(例) 農家の米作りの工夫を捉える目的で、【カード④】とグラフを読むと、「雑草に対する農家の取組—そのことによる結果」という関連性が捉えられることから、目的に応じて資料の見え方が変わってくるのが分かる。

【学校・家庭・地域との連携】

複数の資料を関連付けて読むことは、多くの情報が溢れている実社会において重要な力であることから、国語科だけでなく、様々な教科等においても機会を捉えて指導していくことが重要である。

(3) -② 具体的な問題と解答状況 ー小学校算数ー

○相当数の児童ができている点

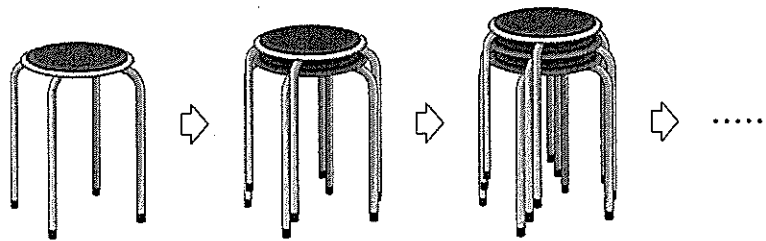
○ 「伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めること」について、正答率が高い。

1 (1)

1

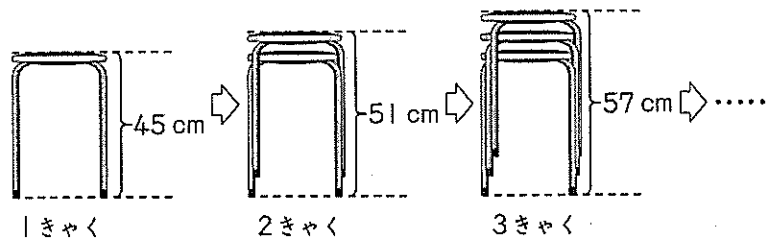
同じいすがたくさんあります。

(1) はるまさんたちは、いすをかたづけるために、下のよう重ねています。



1きやくのいすの高さは、45 cm です。

下のよういすを重ねていくと、高さが変わります。



いすの数と高さの関係を、下の表にまとめます。

いすの数 (きやく)	1	2	3	4	5
高さ (cm)	45	51	57	63	A

表の中の A にあてはまる数を書きましょう。

【正答】 1 (1) 69

	正答率
山口県	93.6%
全国	93.5%

○ 「一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をすること」について、正答率が高い。

1 (4)

(4) いすを1列に50きやくずつ、40列並^{なら}べるとすると、全部のいすの数は、 50×40 で求めることができます。

いすは全部で何きやくになりますか。

答えを書きましょう。

【正答】 1 (4) 2000

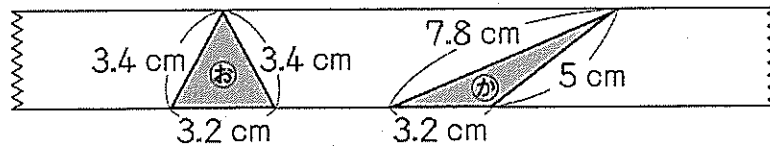
	正答率
山口県	81.6%
全 国	80.8%

●課題のみられる点

- 「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること」について、課題が見られる。

2 (4)

(4) えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような㊸と㊹の2つの三角形をつくります。



上の㊸と㊹の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。
下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。
また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 ㊸の面積のほうが大きい。
- 2 ㊹の面積のほうが大きい。
- 3 ㊸と㊹の面積は等しい。
- 4 ㊸と㊹の面積は、このままでは比べることができない。

	正答率
山口県	18.2%
全国	20.8%

【正答例】 2 (4)

3

三角形の面積は、底辺×高さ÷2で求めることができます。㊸と㊹の底辺は、どちらも3.2cmなので等しいです。㊸と㊹の高さは、テープのはばがどこも同じ長さなので等しいです。だから、㊸と㊹の面積は等しいです。

結果を踏まえて

【誤答の状況とそれに応じた解決の方法】

特徴的な誤答

○㊦の面積は、 $3.2 \times 3.4 \div 2 = 5.44$ で 5.44 m^2
○㊧の面積は、 $3.2 \times 7.8 \div 2 = 12.48$ で 12.48 m^2
だから、○㊧の方が大きい。

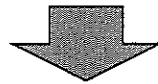


→高さにはならない部分の長さを高さとして捉え、実際に三角形の面積を求めることで面積の大きさを比較している。

○三角形の面積を求める公式は、底辺×高さ÷2です。しかし、この問題では、高さが書いていません。よって○と○の面積はこのままでは比べることはできません。



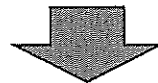
→与えられた条件では、底辺が同じであるものの、高さの具体的な数値が示されていないことを捉え、大きさが比較できないと判断している。



このような誤答の子どもは…

底辺×高さ÷2により、三角形の面積を求めることができることについては十分理解している。

三角形の高さに対する正しい認識や、底辺の長さが共通の三角形において、平行線の性質を捉えて面積の大小を判断することに課題があると考えられる。



課題解決に向けて

【課題解決に役立つやまぐちっ子学習プリント】

小学校5年 やまぐちっ子 DASH 「図形と面積」

【授業改善の方策】

三角形の底辺や高さや面積の関係を基に面積の大小を判断できるようにすることが重要である。授業においては、三角形の面積を比較する問題を取り上げ、底辺と高さの具体的な長さが分からない場合でも、底辺と高さがそれぞれ等しければ、三角形の面積は等しくなるということを、三角形の面積の公式をもとに判断できる機会をつくることが求められる。

【学校・家庭・地域の連携】

中学校2年で学習する「平行線と面積」にも関連する内容であることから、小中の連携体制を生かし、中学校数学科教員と連携して教材開発や指導のあり方を検討していくことも有効である。

(3) -③ 具体的な問題と解答状況 一中学校国語一

○相当数の生徒ができています

○「目的や場面に応じて質問する内容を検討すること」について、正答率が高い。

1 -

【インタビュー(後半)】

南 貴志中学校の市役所へ来て、先日、インターネットで、星野さんの記事を見ました。今日は、星野さんの製品開発に対する思いについて、詳しくお聞きしたいと思っております。よろしくお願ひします。

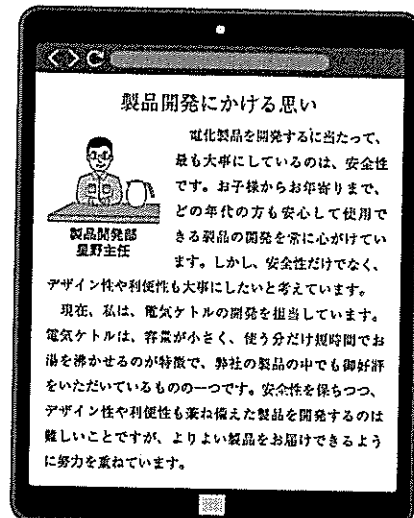
星野 「ありがとうございます。製品開発に当たり「安全性だけでなく、デザイン性や利便性も大事にした」ととおっしゃっていただきましたが、そのように考えるのはどうですか。

南 はい。お客様の安全を守るための配慮をすることは当然なのですが、それだけでは不十分で、お客様のニーズに合った多様なデザインや、年代に関わらず手軽に使用できる利便性が求められるからです。お客様の向けのアンケート調査などからも、そういった声が多く聞かれます。例えば、電気ケトルは開けられるはずみで倒れる可能性があります。だからといって、倒れにくい形状にすることを考えると、デザイン性が損なわれてしまいます。私たちが開発している電気ケトルは、デザイン性と利便性も兼ね備えています。私たちが開発するに、安全性とデザイン性の両立を図っています。なるほど、いろいろいることを想定しながら開発しているんですね。

南 そのとおりです。この製品を開発するに当たって、お客様のことを第一に考えます。製品を使用してくださいお客様に期待に応えるために、努力は惜しみません。

南 お客様のことを大切にしたいと思いましたが、安全性と利便性の両立についても、具体的に教えてください。

星野 例えば、利便性という点では、手軽に使うことを重視するお客様も多くいらっしゃるでしょう。電気ケトルの軽量化に努めています。しかし、軽くするために構造を簡略化すると、手に触れる部分に熱が伝わりやすくなってしまったり、安全性が損なわれることがあります。先日、こうした課題の解決に頭を悩ませていました。



【インタビューの目的】

星野さんの製品開発に対する思いを聞き、自分の考えの参考にします。

【インタビューを通して知りたいこと】

- ①「安全性だけでなく、デザイン性や利便性も大事にしたい」と考えるのはどうですか。
- ②「安全性を保ちつつ、デザイン性や利便性も兼ね備えた製品を開発するのは難しい」とあるが、具体的にどのような難しさがあるのか。
- ③社会で働く上で何が大切だと思うか。

1 南さんは、総合的な学習の時間に、「社会で働く上で大切なことを考える」という学習に取り組んでいます。インターネットで情報を集めていた南さんは、電化製品を開発している星野さんの記事に興味を持ち、会社を訪ねて星野さんにインタビューをしました。次の「インターネットの記事」(1)「星野さんの記事」(2)「インタビューの目的」(3)「インタビューを通して知りたいこと」(4)を参考に、あとの問いに答えてください。

【インタビューの目的】

【インタビューを通して知りたいこと】

1 南さんの「インタビューの目的」について説明したものと最も適切なものを、次の1から4までのの中から1つ選びなさい。

- 1 インタビューの目的に合った質問をするために、知りたいことを整理している。
- 2 質問の内容を相手に伝えるために、言葉遣いや話し方を確認している。
- 3 見通しをもって話を進めるために、質問に対する相手の答えを予想している。
- 4 話題を広げるために、インタビューの目的とは異なる質問を用意している。

南 製品を開発するために、星野さんはどのようにしてインタビューをするか、私は実際に訪問して話を聞きたいのですが、星野さんはどうお考えですか。

星野 インタビューはなかなか行かないのです。そういえば、私は訪問と話し合うようにしています。年代や経験が異なるメンバーで話しているとき、一人だけ覚えていたときは思いがなかなかないです。年が離れたら、自分とは異なる考えや方法を学ぶことは、学校でも職場でも大事なことではないでしょうか。確かに、そうでは、他に、働く上で大切にしていることはありますか。

南 自分の経験以外にも話を聞けることで、1つのことにはたどり着かずに、新たな発見は生まれません。様々な発見を大切にしながら進めたいと思います。

星野 とても重要なことですね。質問は以上です。

南 ありがとうございました。

【正答例】 1 - 1

	正答率
山口県	88.1%
全国	87.5%

○ 「事象や行為、心情を表す語句について理解すること」について、正答率が高い。

2 1

2

2 中山さんは、本の読み方について著者とならば、「△」と「□」のどちらを誤んではいけません。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

「線部」部「落胆する」による。

「線部」部「落胆する」による。

「線部」部「落胆する」による。

「線部」部「落胆する」による。

- 線部「落胆する」の意味として最も適切なものを、次の1から4までのの中から1つ選びなさい。
- 1 慌てる
 - 2 恐れる
 - 3 恥ずかしがる
 - 4 がっかりする

【正答例】 2 — 4

	正答率
山口県	91.1%
全 国	91.1%

●課題のみられる点

- 「文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること」について、課題が見られる。

4 三

4 石井さんは、国語の時間に、「竹取物語」を読みました。そのあと、学校図書館で、現代語で書かれた「竹取物語」を見付け、読み比べてみました。次は、「授業で読んだ「竹取物語」の二部の「原文」とその「現代語訳」、学校図書館で見付けた「竹取物語」の二部」です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【授業で読んだ「竹取物語」の二部】

＜原文＞

今は昔、竹取の翁といふものありけり。野山にまじりて竹を取りつづ、よろづのことに使ひけり。名をば、さぬまの翁とならむいひける。その竹の中に、もと光る竹なむ一節ありけり。あやしがりて、寄りて見るに、節の中光りたり。それを見れば、三千ばかりなる人、いとつくしうてみたり。

＜現代語訳＞

今ではもう昔のことだが、竹取の翁という者がいた。野や山に分け入つて竹を取つては、いろいろなことに使つていた。名前を、さぬまのみやつこといつた。その竹の中に、根もとの光る竹が一本あった。不思議に思つて、近寄つて見ると、節の中が光っている。それを見るとき、三千ほどの人が、とてもかわいらしい様子で居っている。

【学校図書館で見付けた「竹取物語」の二部】

【原文】「竹取物語」による

【現代語訳】「竹取物語」による

【原文】「竹取物語」による

三 【学校図書館で見付けた「竹取物語」の二部】は、古来の作品である【竹取物語】に、竹取の翁が工夫を加えて現代語で書いた【竹取物語】の二部の光景を取り上げて、あとの問いに答えなさい。

※ 読み直して文を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加れたりしてかまいません。

※ 左の枠は、下書きに使つてもかまいません。原答は必ず解答用紙に書きなさい。

--

【正答例】 4 三

- ・「よろづのこと」を「笠、竿、杖、籠、筆、箱、筒、箸。」というように具体的に書いて、翁が竹でどのようなものを作っていたのかが分かるようにしている。
- ・「手なれた仕事だ。」と付け加えることで、竹を割る翁の様子を読者が想像できるようにしている。

	正答率
山口県	50.6%
全国	50.0%

結果を踏まえて

【誤答の状況とそれに応じた解決の方法】

特徴的な誤答

○【授業で読んだ「竹取物語」の一部】の〈現代語訳〉では、「竹を取っては、いろいろなことに使っていた」としか書かれていないが、【学校図書館で見つけた「竹取物語」の一部】では、「笠、竿、箒、籠、筆、箱、筒、箸」など具体的なものを書いている。



→二つの文章の表現方法の違いを具体的に挙げて書いているが、表現の効果について、自分が考えたことは書かれていない。

このような誤答の子どもは…

二つの文章の表現方法の違いを捉えられていることから、表現されている内容だけでなく、表現方法に着目して文章を読むことができています。

二つの文章の表現方法の違いの指摘にとどまり、自分の考えが述べられていないことから、文章の叙述を引用して取り上げることが自分の考えであるという誤った認識をしており、「根拠を基に自分の考えを書く」ということが、具体的にどのようなことなのかイメージをもてていない可能性がある。

※大問1四でも同様に、インタビューで分かったことを述べるにとどまり、自分の考えを書けていない様子が見られた。



課題解決に向けて

【課題解決に役立つやまぐちっ子学習プリント】

中学校2年 話す・聞く④ステップ4 中学校2年 書くステップ2、3

【授業改善の方策】

例えば、下に示した例文について

- ・「根拠（文章の叙述）」と「自分の考え」が書かれている部分がどこにあたるのかを区別させる。
- ・「根拠（文章の叙述）」と「自分の考え」とをつなぐために、どのような言葉（～ということから、～ということをもとに、～により 等）が使われているのかを捉えさせる。

そうすることで、「根拠」と「自分の考え」とは別のものであることや、「根拠を基に自分の考えを書く」ことのイメージをつかませることができると考えられる。

「根拠（叙述）」部
 【授業で読んだ「竹取物語」の一部】では、「三寸ばかりなる人」と書いてあるが、
 【学校図書館で見つけた「竹取物語」の一部】では、「手のひらに乗るような小さな女の子」と書いてある。このことから、どのような人物なのかが具体的に分かるように書かれていると感じる。つなく言葉部 「自分の考え」部

【学校・家庭・地域との連携】

例えば、日記指導においても、出来事だけでなく感じたことを書かせる等、小学校低学年段階より、「根拠」と「自分の考え」等の一文一文の役割を認識しながら読んだり書いたりする経験を積ませることが大切である。

(3) -④ 具体的な問題と解答状況 -中学校数学-

○相当数の生徒ができている点

○ 「数と整式の乗法の計算」について、正答率が高い。

2

$12\left(\frac{x}{4} + \frac{y}{6}\right)$ を計算しなさい。

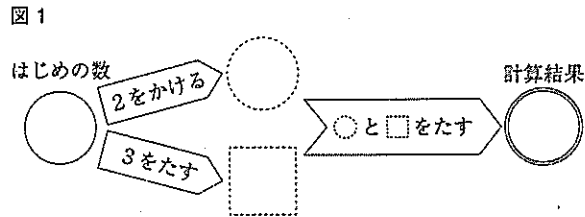
【正答】 2 $3x + 2y$

	正答率
山口県	81.2%
全国	80.5%

○ 「問題場面における考察の対象を明確に捉えること」について、正答率が高い。

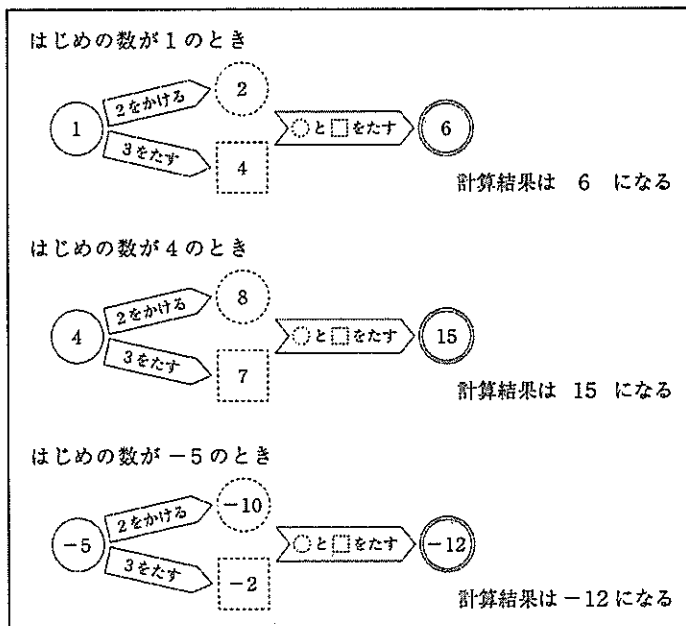
6 (1)

6 次の図1のように、はじめの数として○に整数を入れて計算し、計算結果を求めます。



夏希さんは、はじめの数として○にいろいろな整数を入れて計算しています。例えば、はじめの数が1、4、-5のときは、それぞれ下のような計算になります。

計算の例



(1) はじめの数が11のとき、計算結果を求めなさい。

【正答】 6 (1) 36

	正答率
山口県	89.6%
全国	88.9%

●課題のみられる点

● 「構想に基づいて証明すること」について、課題が見られる。

9 (1)

9 次の図1のように、 $CA = CB$ の二等辺三角形 ABC と、 $\triangle ABC = \triangle DEF$ となるような $\triangle DEF$ の2つの三角形を厚紙で作ります。

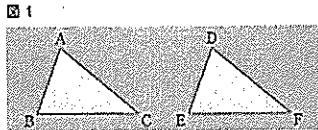
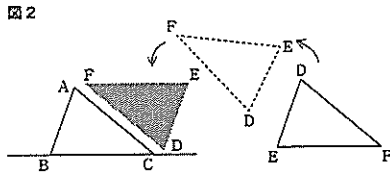


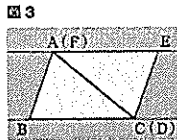
図1の2つの三角形の厚紙を使って、次の方法1と方法2でそれぞれ2つの直線をひきます。

方法1

◇ $\triangle ABC$ を置いて、直線 BC をひく。そして、図2のように、 $\triangle DEF$ を回して、点 F を点 A に、点 D を点 C に重ねる。

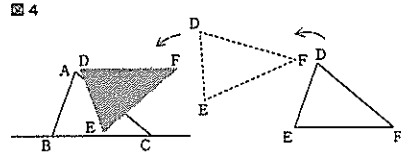


◇ 図3のように、点 A と点 F が重なった点を A として、直線 AE をひく。また、点 C と点 D が重なった点を C とする。

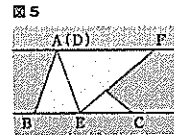


方法2

◇ $\triangle ABC$ を置いて、直線 BC をひく。そして、図4のように、 $\triangle DEF$ を回して、点 D を点 A に、点 E を直線 BC 上に置く。ただし、点 E は点 B と重ならないように置く。



◇ 図5のように、点 A と点 D が重なった点を A として、直線 AF をひく。



優奈さんは、方法1の直線 BC と直線 AE 、方法2の直線 BC と直線 AF がそれぞれ平行になるのではないかと考え、調べることにしました。

次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

(1) 優奈さんは、前ページの方法1の直線 BC と直線 AE が平行になるかどうかを調べるために、右の図6をかきました。図6の $\triangle ABC$ と $\triangle CEA$ は、それぞれ $CA = CB$ 、 $AC = AE$ で、 $\triangle ABC = \triangle CEA$ です。

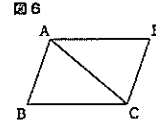


図6において、 $BC \parallel AE$ であることは、すでにわかっている $\triangle ABC = \triangle CEA$ をもとにして、同位角または錯角が等しいことを示すことで証明できます。 $BC \parallel AE$ であることを証明しなさい。

【正答例】 9 (1)

$\triangle ABC \cong \triangle CEA$ より、合同な図形の対応する角は等しいから、
 $\angle BCA = \angle EAC$
 よって、錯角が等しいから、
 $BC \parallel AE$

	正答率
山口県	29.4%
全国	32.1%

結果を踏まえて

【誤答の状況とそれに応じた解決の方法】

特徴的な誤答

○ $\triangle ABC \equiv \triangle CEA$ より、 $\angle BCA = \angle EAC$
四角形 ABCD は平行四辺形だから
 $BC \parallel AE$

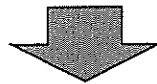


→ 結論部の「 $BC \parallel AE$ 」について記述しているものの、成り立たないことや証明していないことを根拠として用いている。

○ $\triangle ABC \equiv \triangle CEA$ より、平行線の性質から
 $\angle BCA = \angle EAC$
錯角が等しいので、 $BC \parallel AE$



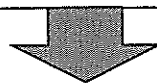
→ 結論部の「 $BC \parallel AE$ 」について記述しているものの、結論（平行であること）により示せる事柄を根拠として用いている。



このような誤答の子どもは…

証明の結論部の記述方法や基本的な平面図形の性質については理解ができていると考えられる。

三角形の合同を用いて事柄が成り立つことを証明する技能や、証明を進める上での仮定や結論の使い方に対する理解について課題があると考えられる。



課題解決に向けて

【課題解決に役立つやまぐちっ子学習プリント】

中学校2年 やまぐちっ子プラス 図形の調べ方

【授業改善の方策】

事柄が成り立つことを証明することができるようにするためには、構想を立て、それに基づいて仮定から結論を導く推論の過程を数学的に表現できるように指導することが大切である。授業においては、与えられた条件から、事柄を導く過程を考えるといった構想を立てる活動を取り入れることが考えられる。

【学校・家庭・地域の連携】

証明の問題については、多くの生徒が苦手意識をもっている内容であるため、長期休業中の補充学習において、やまぐちっ子学習プリントの該当問題を地域の方と取り組む等、コミュニティ・スクールの連携・協働体制を生かした取組が有効である。

(3) -⑤ 具体的な問題と解答状況 -中学校英語-

○相当数の生徒ができている点

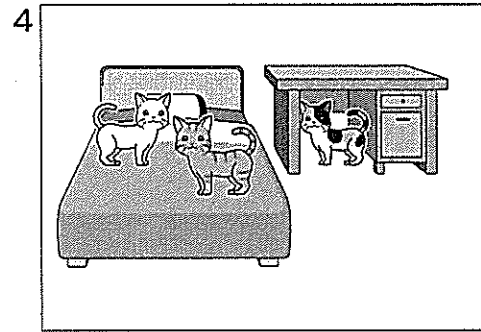
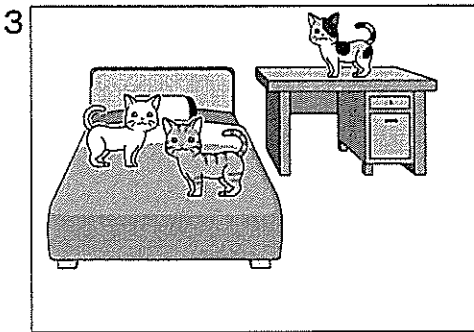
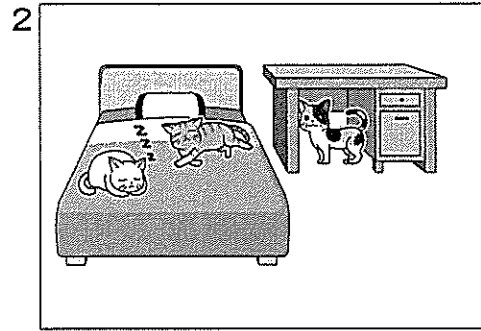
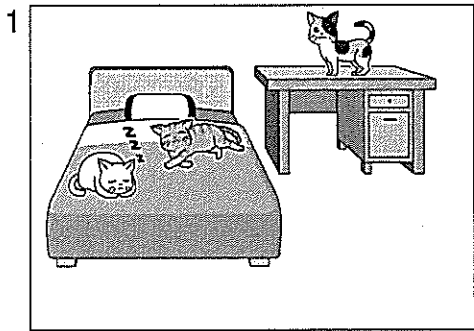
○ 「情報を正確に聞き取ること」について、正答率が高い。

1 (1)

1 (放送問題)

話される英語を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を、それぞれ1から4までの中から1つ選びなさい。

(1)



(1) Look at this picture. There are three cats. You can see a cat under the desk. And the other cats are on the bed. They are sleeping.

【正答】 1 (1) 2

※ 英文が流れる回数…1回
※ 解答時間…15秒

	正答率
山口県	80.2%
全国	79.0%

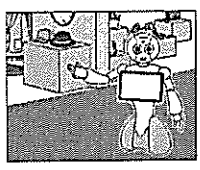
△全国平均正答率を上回っているものの課題のみられる点

△ 「社会的な話題について、短い文章の要点を捉えること」について、全国平均正答率よりも上回っているものの、正答率が60%を下回っており課題がみられる。

8 (1)

8 英語の授業で、ブラウン先生が作成した文章が学習者用端末に送信されました。これを読んで、以下の問いに答えなさい。

Today we see many kinds of robots around us. They are helpful. When I went shopping, I saw a robot and it was working as a guide. I



could talk to the robot in English or other languages. At some restaurants, robots bring our meals. They can carry many plates at one time. Thanks to them, the restaurant doesn't need a lot of staff members. We have robot pets, too. We can have them even if we are busy with work or we live in small apartments. People will have fun if they live with robot pets. As I explained, robots can change many people's lives for the better. Do you agree with me? Why or why not?

(1) ブラウン先生が最も伝えたいことを、下の1から4までの中から1つ選びなさい。

- 1 We see many kinds of robots around us.
- 2 I saw a robot and it was working as a guide.
- 3 People will have fun if they live with robot pets.
- 4 Robots can change many people's lives for the better.

【正答】 8 (1) 4

	正答率
山口県	57.4%
全国	56.1%

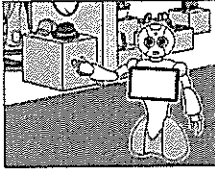
●課題のみられる点

- 「短い文章の要点を捉えて、考えとその理由を書くこと」について、課題が見られる。

8 (2)

- 8 英語の授業で、ブラウン先生が作成した文章が学習者用端末に送信されました。これを読んで、以下の問いに答えなさい。

Today we see many kinds of robots around us. They are helpful. When I went shopping, I saw a robot and it was working as a guide. I could talk to the robot in English or other languages. At some restaurants, robots bring our meals. They can carry many plates at one time. Thanks to them, the restaurant doesn't need a lot of staff members. We have robot pets, too. We can have them even if we are busy with work or we live in small apartments. People will have fun if they live with robot pets. As I explained, robots can change many people's lives for the better. Do you agree with me? Why or why not?



(2) ブラウン先生の質問に対するあなたの考えと理由を英語で簡潔に書きなさい。

【正答例】 8 (2)

I agree with you. If robots do our housework, we will have more time.

I don't agree with you because people will lose their job.

	正答率
山口県	16.4%
全国	19.5%

特徴的な誤答

① I don't agree with you. We losts a job.

→ 語彙や語形に誤りがある。

② I agree with you.

→ 書き手の意見に対する自分の考えのみを書いている。

③ I can enjoy every day with robots.

→ 与えられた話題について自分の考えのみを書いている。

④ Teacher is nice.

→ 先生について書いている。



このような誤答の子どもは…

①文章の内容を把握し、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書いているが、正しい語や文法事項等を理解して文章を書くことに課題があると考えられる。

②書き手の意見に対する自分の考えを書いているが、その理由を書くことに課題があると考えられる。

③書き手の意見に対する自分の考えを書くことに課題が見られ、与えられた話題について自分の考えのみを書いている。

④文章の内容を把握することができていない、または自分の考えとその理由を示すために必要な表現が身に付いていないと考えられる。

課題解決に向けて

【課題解決に役立つやまぐちっ子学習プリント】

中学校2年 やまぐちっ子 DASH 「読む・書く」②

【授業改善の方策】

読むことから書くことにつながる技能統合型の言語活動を工夫したい。また、目的・場面・状況に応じた言語活動を行う中で、正確さを意識しながら基本的な語や文法事項等を身に付けさせたい。

【学校・家庭・地域の連携】

既習事項を日々の言語活動の中で繰り返し使うことで定着を図ることができるため、ALTや地域に住んでいる外国人、外国人旅行者等との交流を通して、コミュニケーション力を高めたい。

3 質問紙調査の結果

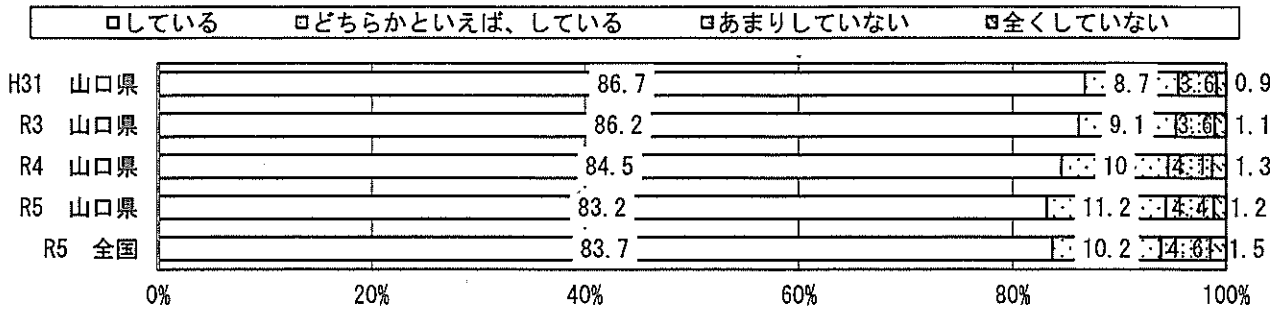
(1) 児童生徒質問紙

① 子どもの意識・生活習慣

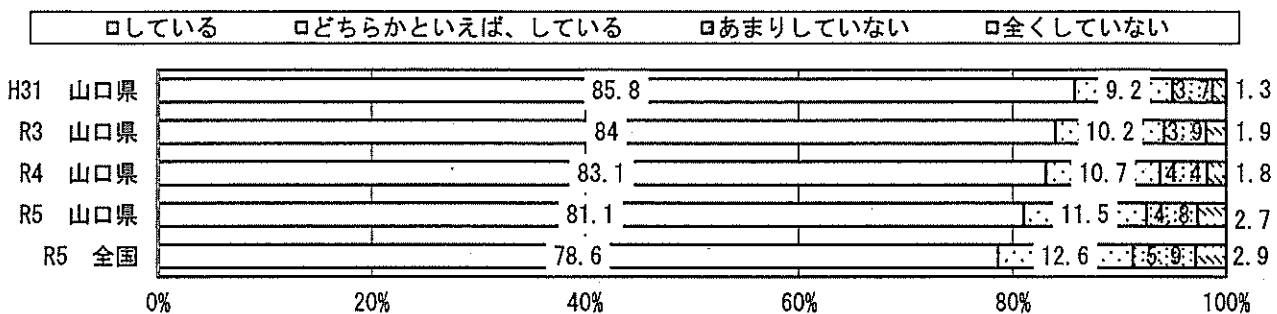
ア 朝食を毎日食べている

● 朝食を毎日食べていると回答した児童生徒の割合は、年々減少している。

【小学校】 (1) 朝食を毎日食べている



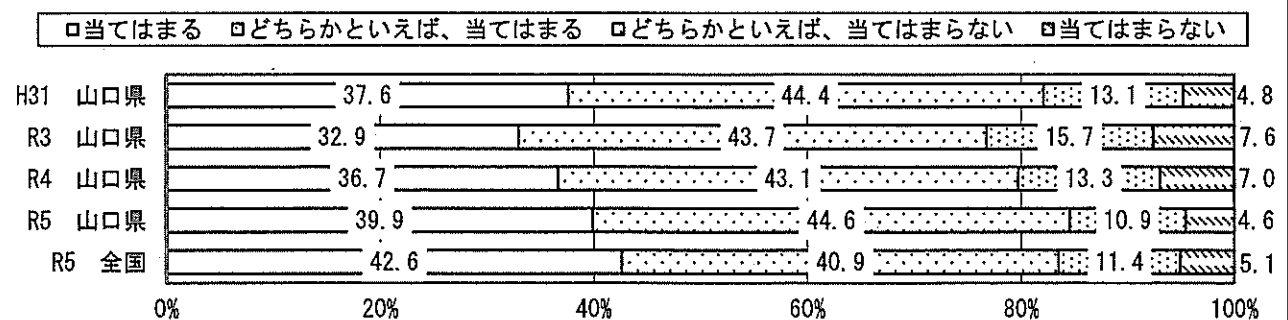
【中学校】 (1) 朝食を毎日食べている



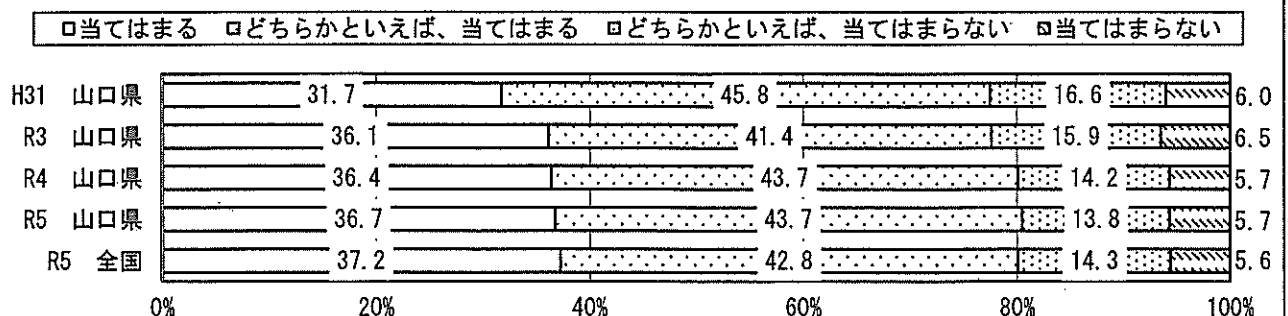
イ 自分にはよいところがある

○ 自分にはよいところがあると思うと肯定的に回答した児童生徒の割合は、前年度に比べて増加している。

【小学校】 (4) 自分には、よいところがあると思う



【中学校】 (4) 自分には、よいところがあると思う

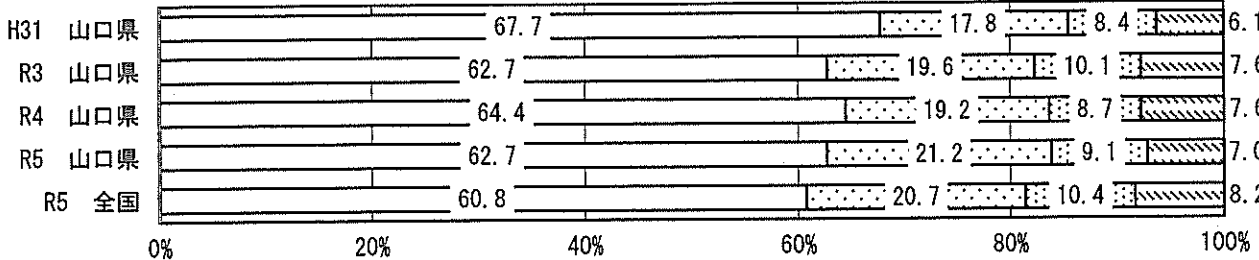


ウ 将来の夢や目標を持っている

- 将来の夢や目標を持っていると回答している児童生徒の割合は、全国と比べて高いものの、減少傾向がみられる。

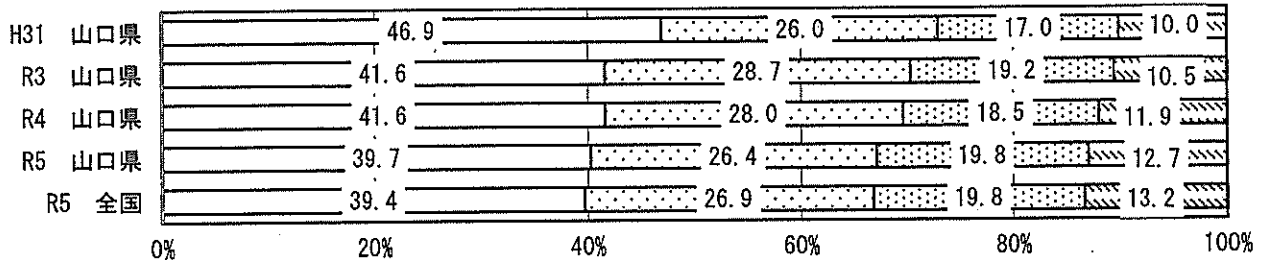
【小学校】（7）将来の夢や目標を持っている

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない



【中学校】（7）将来の夢や目標を持っている

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

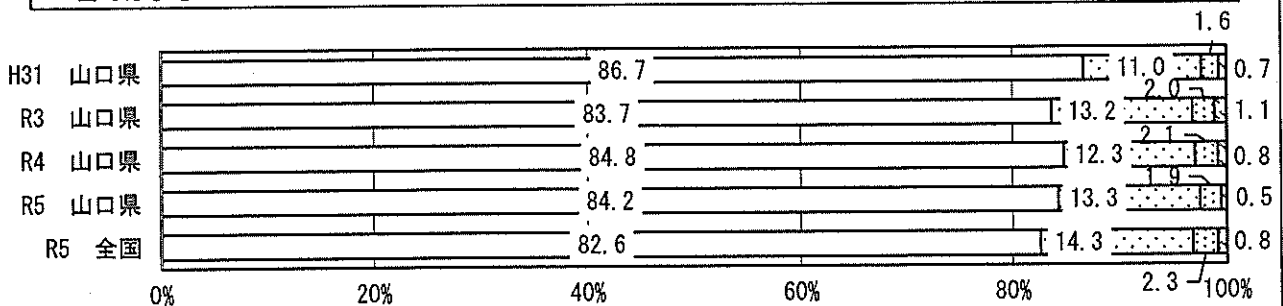


エ いじめは絶対にいけない

- いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うと回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。

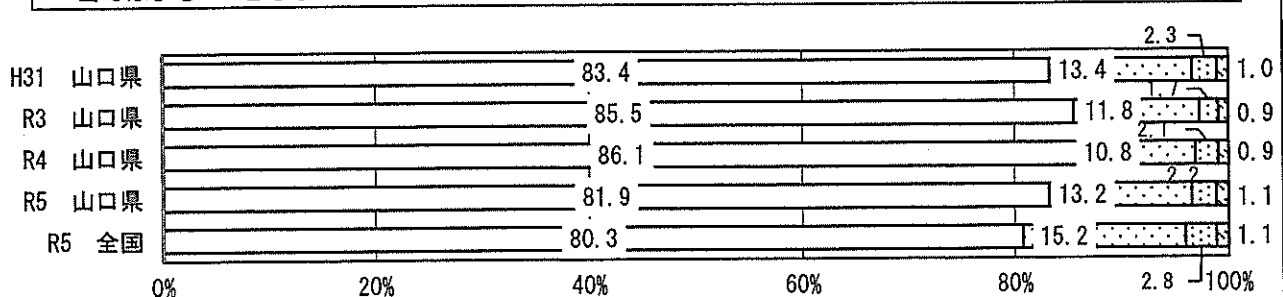
【小学校】（9）いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない



【中学校】（9）いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う

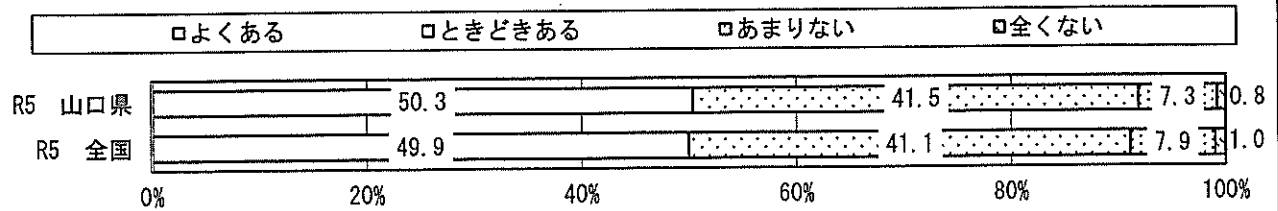
□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない



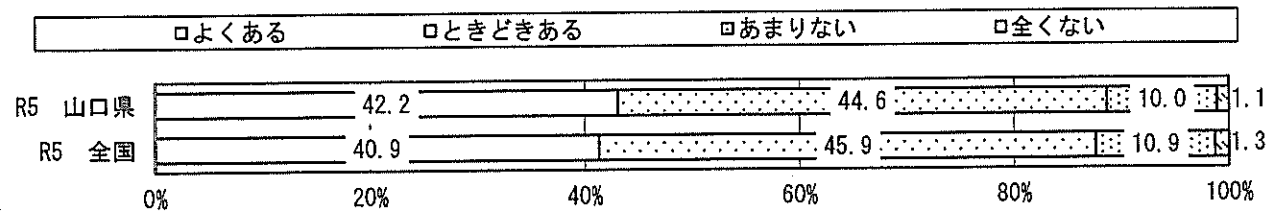
オ 普段の生活の中で、幸せな気持ちになる

○ 幸せな気持ちになると肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国とほぼ同程度である。

【小学校】（15）普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか



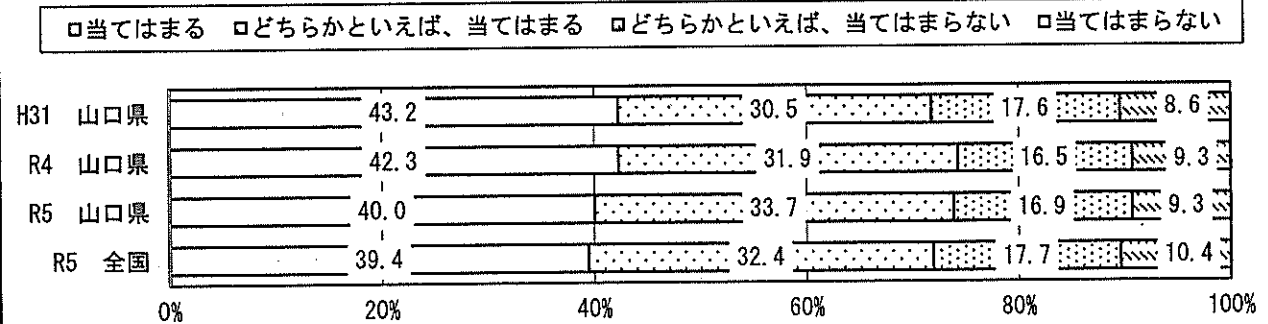
【中学校】（15）普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか



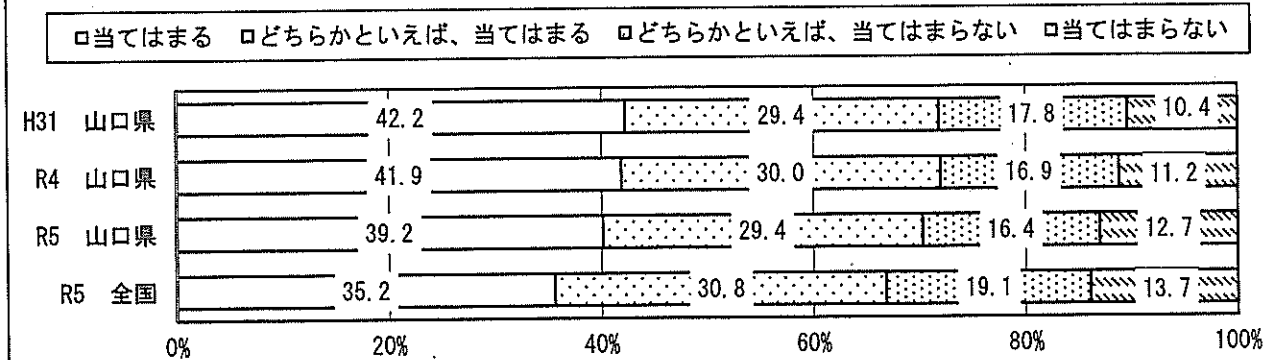
カ 読書が好き

○ 読書が好きと肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。

【小学校】（24）読書は好きですか



【中学校】（24）読書は好きですか

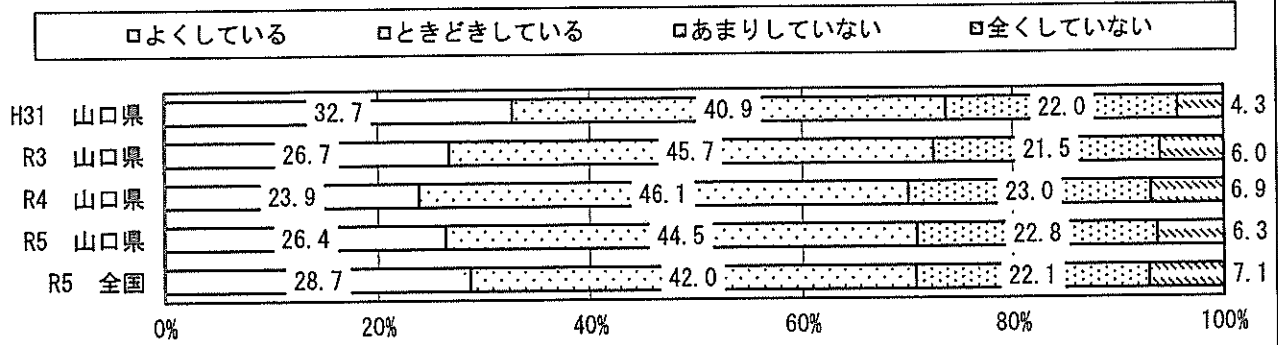


② 学習習慣・ICT

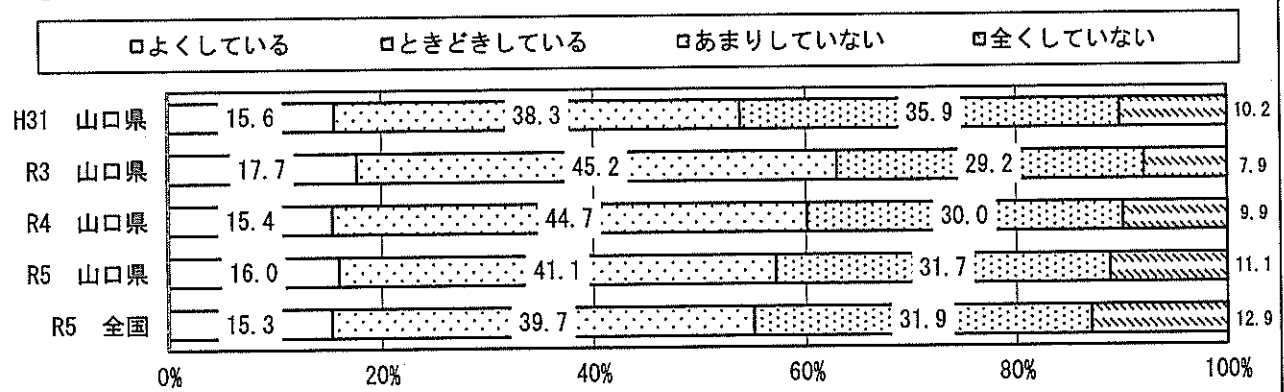
ア 自分で計画を立てた学習

- 家で自分で計画を立てて勉強することを「よくしている」と回答した児童生徒の割合は、小学校で全国を下回り、中学校で10%台となっている。

【小学校】（16）家で自分で計画を立てて勉強をしていますか



【中学校】（16）家で自分で計画を立てて勉強をしていますか

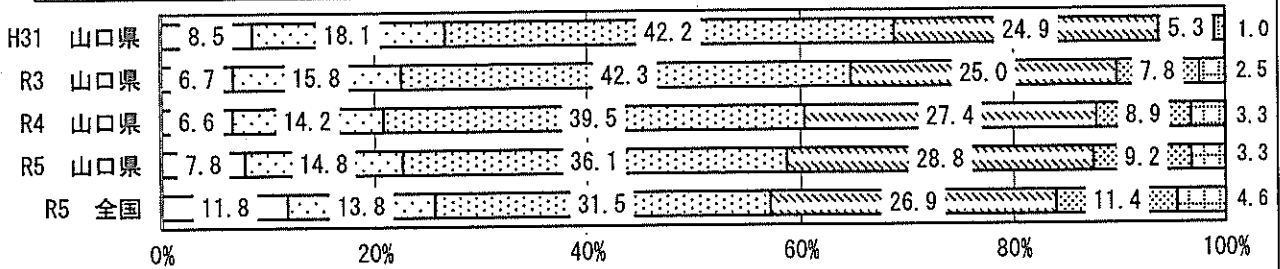


イ 平日の学習時間

- 学校の授業時間以外の勉強を、平日、「全くしない」「30分より少ない」「30分以上、1時間より少ない」と回答した児童生徒の割合が、前年度より増加した。

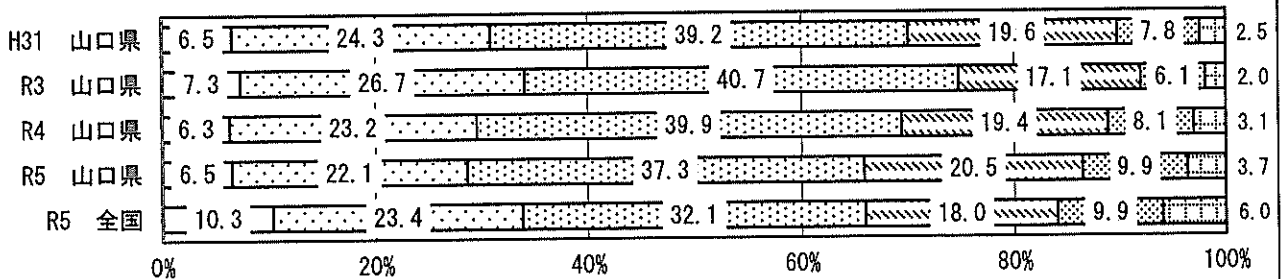
【小学校】（17）学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか

- 3時間以上 2時間以上、3時間より少ない 1時間以上、2時間より少ない
 30分以上、1時間より少ない 30分より少ない 全くしない



【中学校】（17）学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか

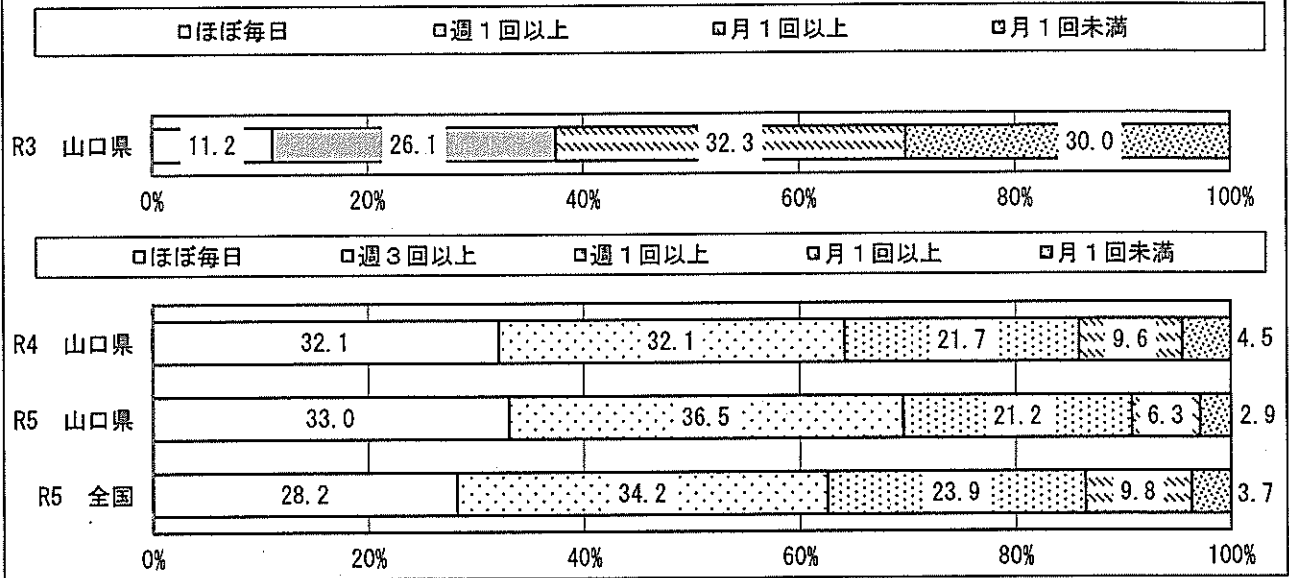
- 3時間以上 2時間以上、3時間より少ない 1時間以上、2時間より少ない
 30分以上、1時間より少ない 30分より少ない 全くしない



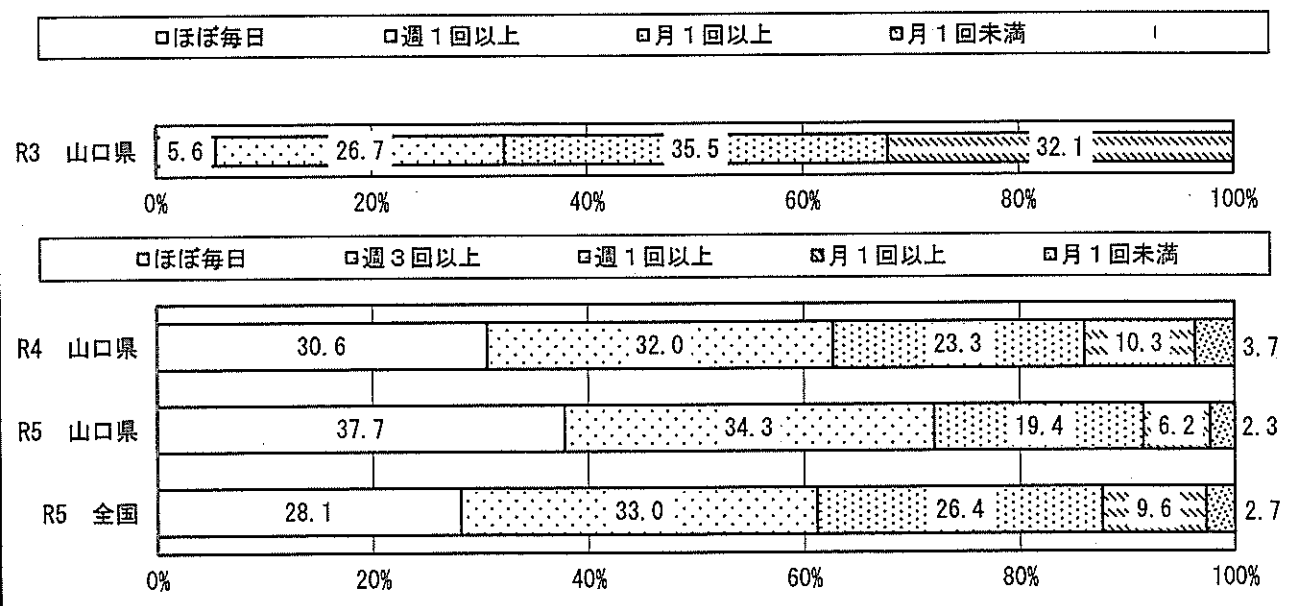
ウ コンピュータやICTをどの程度活用したか

○ 前学年までに受けた授業で、PCなどのICT機器をほぼ毎日使用したと回答した児童生徒の割合は、前年度に比べて増加しており、全国と比べても高い。

【小学校】（29）5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



【中学校】（33）1, 2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

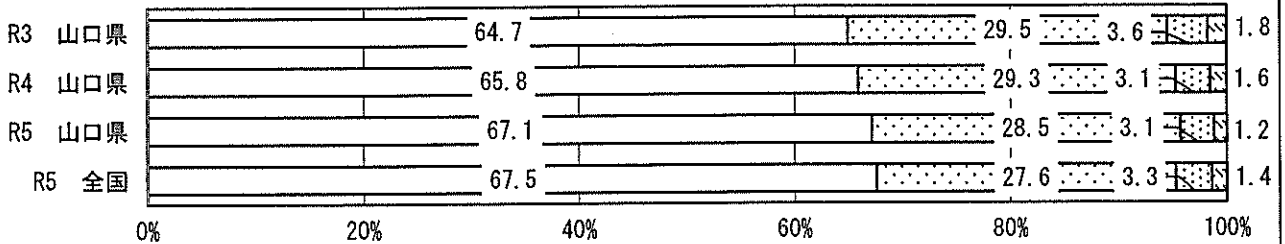


エ 学習の中でICT機器を使うのは勉強の役に立つか

○ 学習の中でICT機器を使うのは役に立つと回答した児童生徒の割合は、全国とほぼ同程度である。

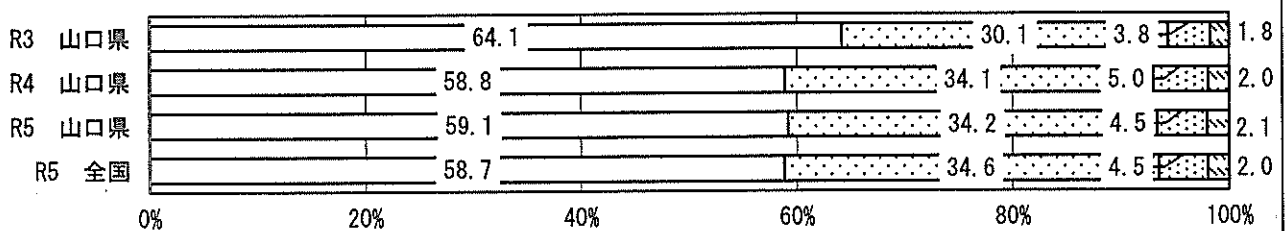
【小学校】(30) 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか

□役に立つと思う □どちらかといえば、役に立つと思う
□どちらかといえば、役に立たないと思う □役に立たないと思う



【中学校】(34) 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか

□役に立つと思う □どちらかといえば、役に立つと思う
□どちらかといえば、役に立たないと思う □役に立たないと思う

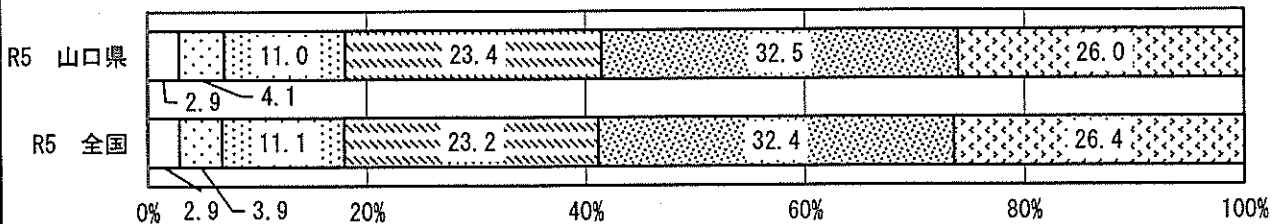


オ 学校の授業時間以外に、ICT機器を勉強のために使っているか

○ 学校の授業時間以外に、ICT機器を1日当たり使っている時間は、全国とほぼ同程度である。

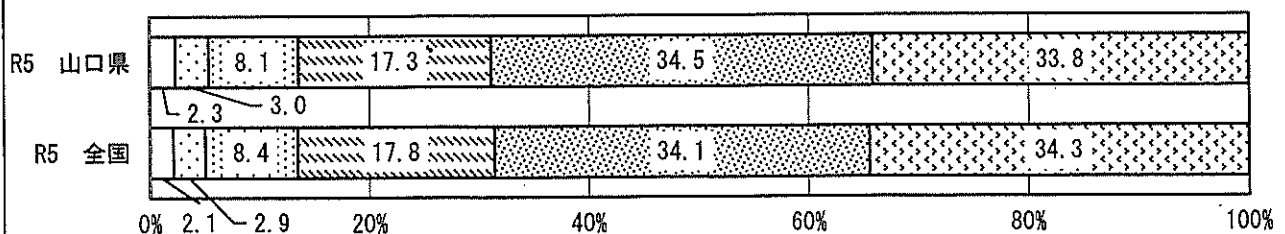
【小学校】(31) 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか

□3時間以上 □2時間以上、3時間より少ない □1時間以上、2時間より少ない
□30分以上、1時間より少ない □30分より少ない □全く使っていない



【中学校】(35) 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか

□3時間以上 □2時間以上、3時間より少ない □1時間以上、2時間より少ない
□30分以上、1時間より少ない □30分より少ない □全く使っていない



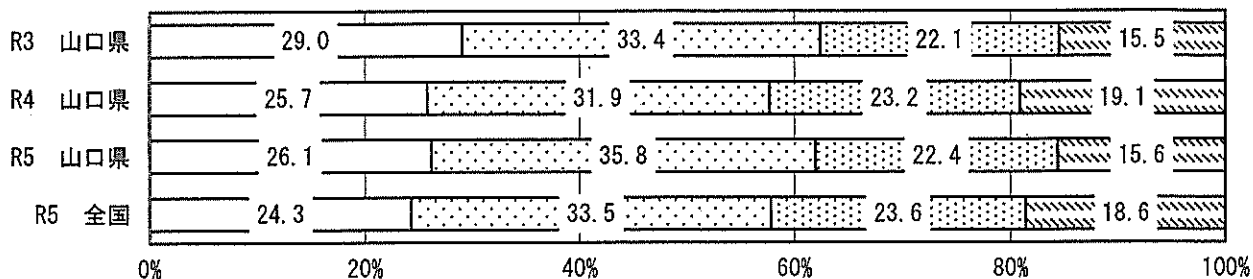
③ 地域や社会との関わり

ア 今住んでいる地域の行事に参加している

○ 今住んでいる地域の行事に参加していると回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高いが、中学校では減少傾向にある。

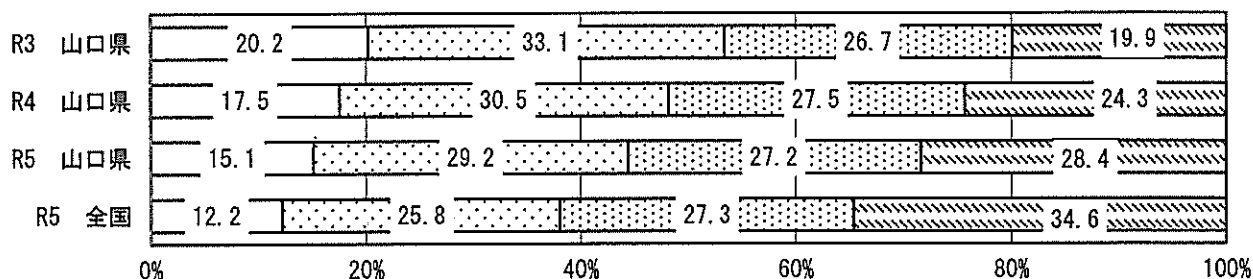
【小学校】（25）今住んでいる地域の行事に参加している

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない



【中学校】（29）今住んでいる地域の行事に参加している

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

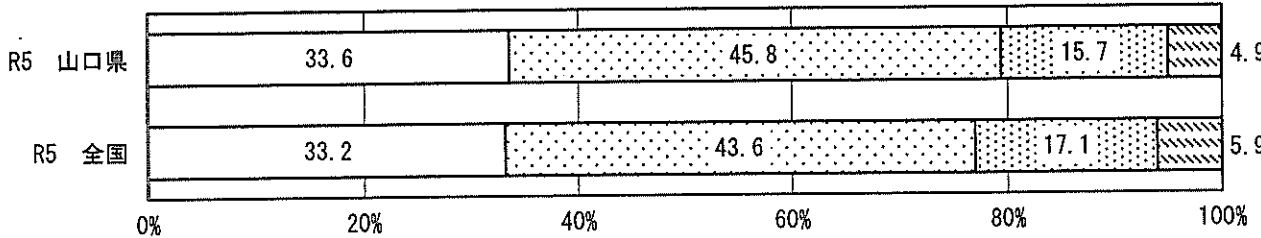


イ 地域や社会をよくするために何かしてみたい

○ 地域や社会をよくするために何かしてみたいと回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。

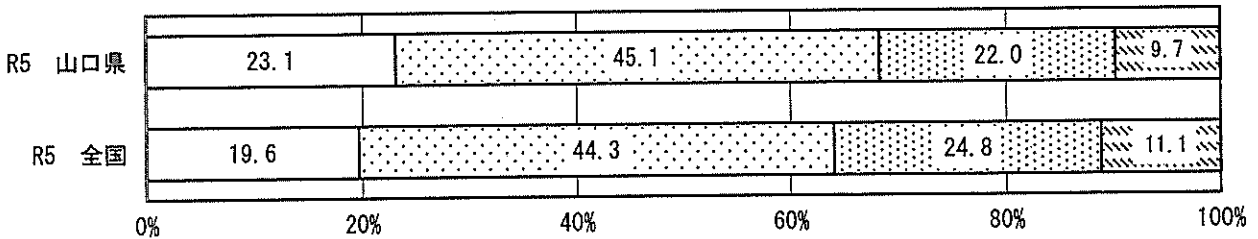
【小学校】（26）地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない



【中学校】（30）地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う

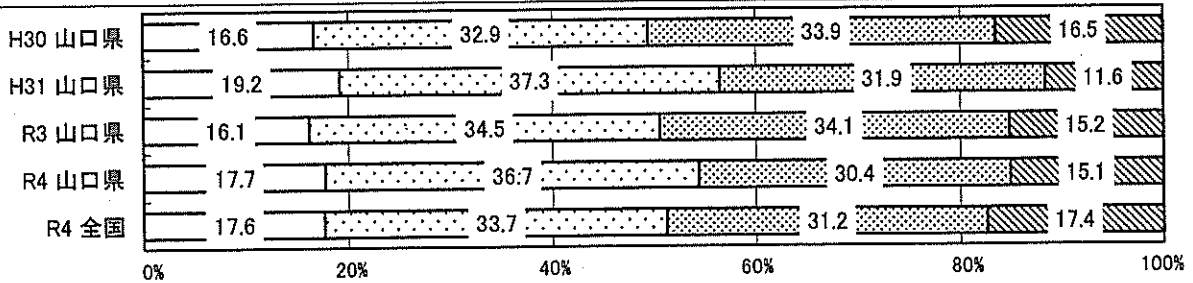
□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない



【参考】R4年度までの経年変化

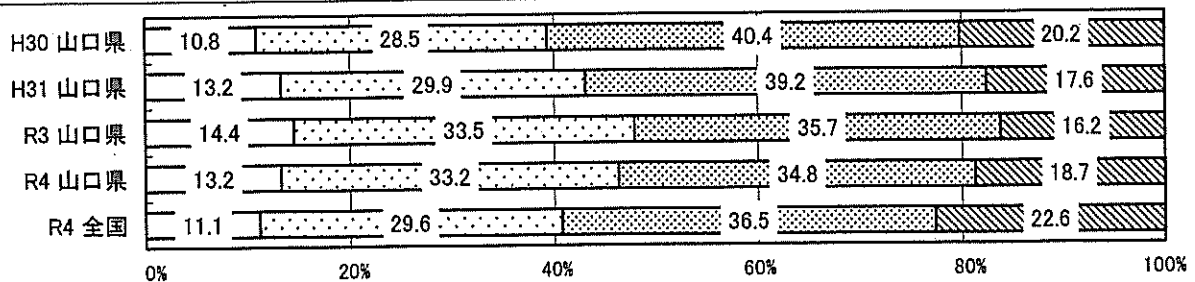
【小学校】（30）地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある

□1 当てはまる □2 どちらかといえば、当てはまる □3 どちらかといえば、当てはまらない □4 当てはまらない



【中学校】（30）地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある

□1 当てはまる □2 どちらかといえば、当てはまる □3 どちらかといえば、当てはまらない □4 当てはまらない



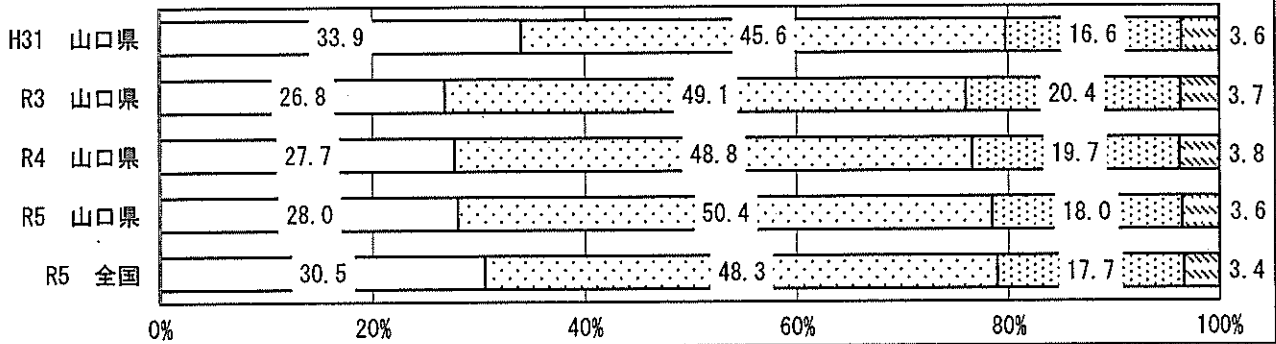
④ 学びに向かう姿勢・授業

ア 課題の解決に向けた主体的な取組

- 小学校では、授業において課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む児童の割合は、全国と比べて低いものの、前年度よりやや増加している。
- 中学校では、全国と比べて高いものの、前年度より減少している。

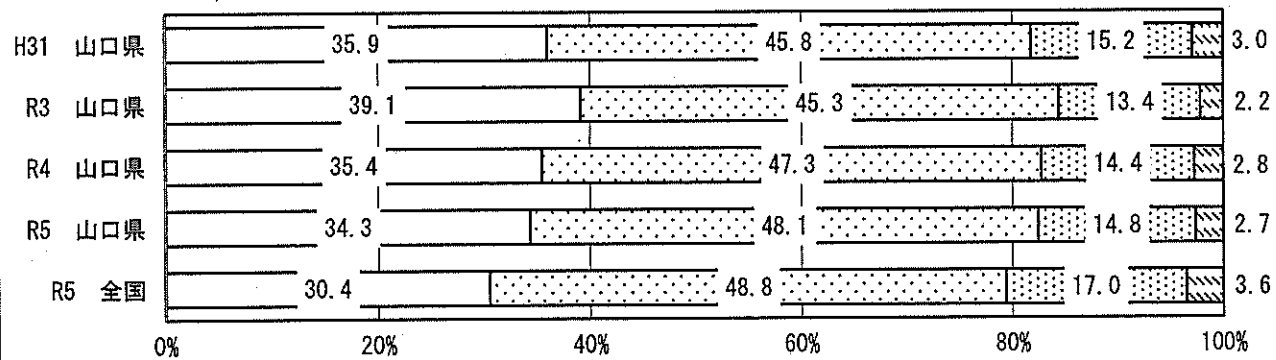
【小学校】（33）課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない



【中学校】（37）課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

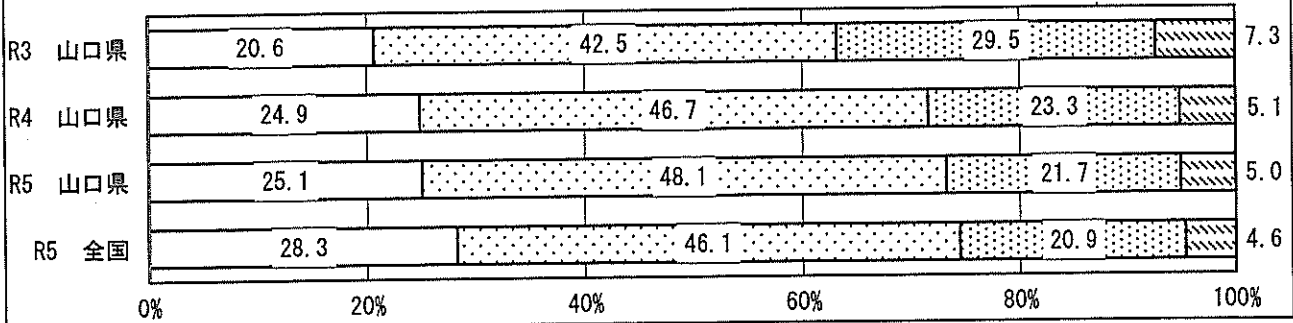


イ 各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動

- 小学校では、授業において各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた児童の割合は、全国と比べて低いものの、前年度よりやや増加している。
- 中学校では、全国と比べて高い。

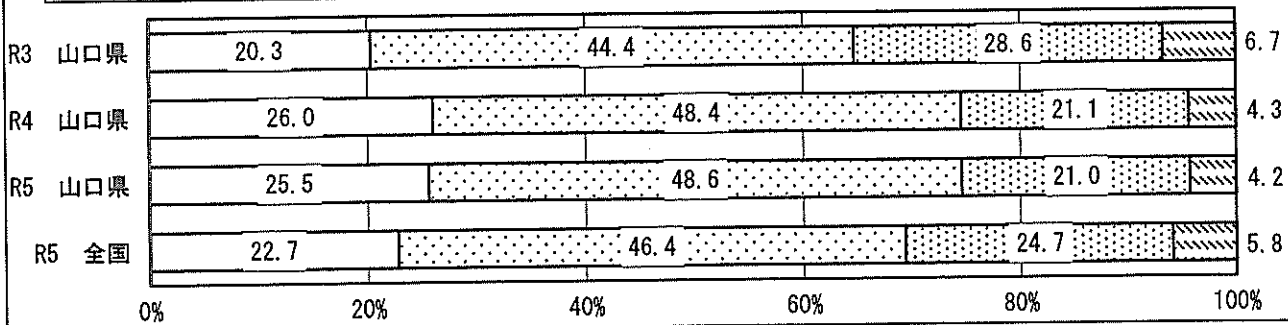
【小学校】（34）授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない



【中学校】（38）授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

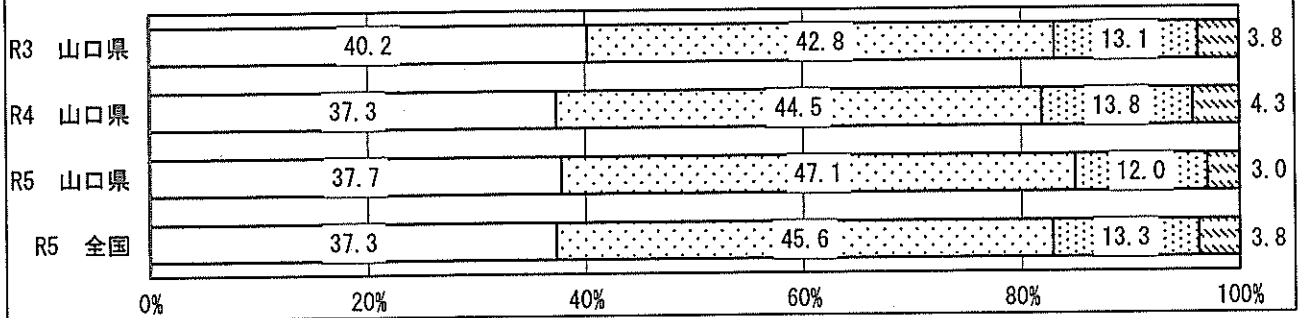


ウ 学習者にあった教え方、教材、学習時間

○ 自分にあった教え方、教材、学習時間になっていたと回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。

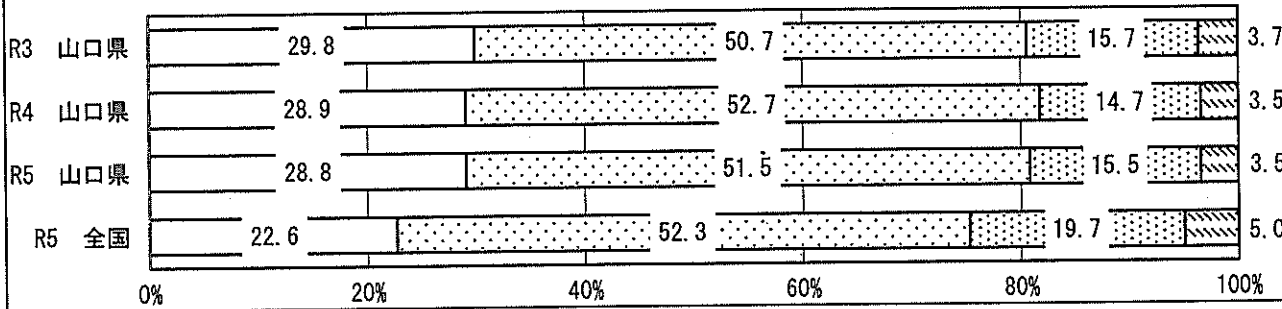
【小学校】（35）授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない



【中学校】（39）授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

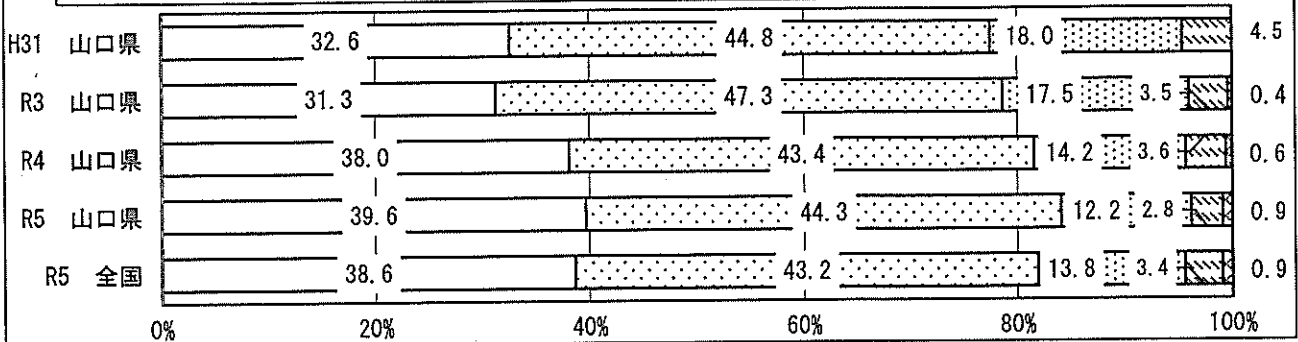


エ 話し合いで自分の考えを深めたり広げたりする

○ 話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。

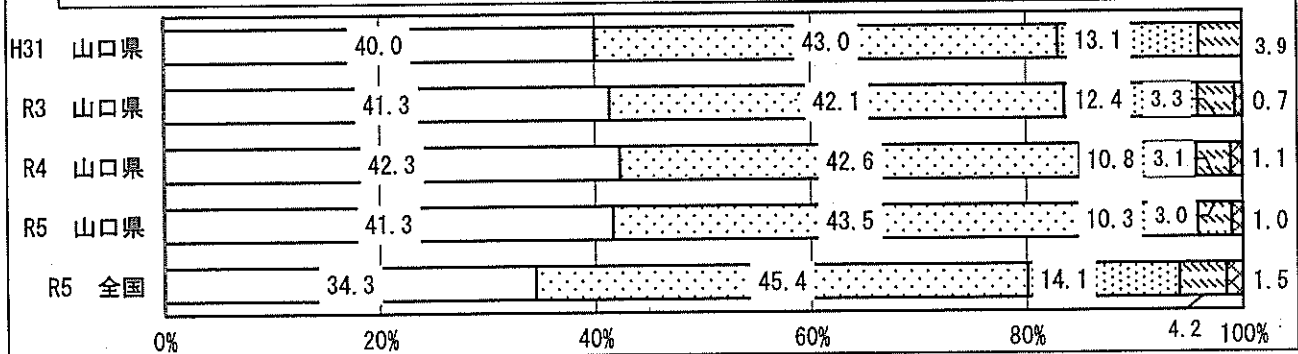
【小学校】（36）学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか

- 当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない
- 学級の友達との間で話し合う活動を行っていない
- どちらかといえば、当てはまる
- 当てはまらない



【中学校】（40）学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか

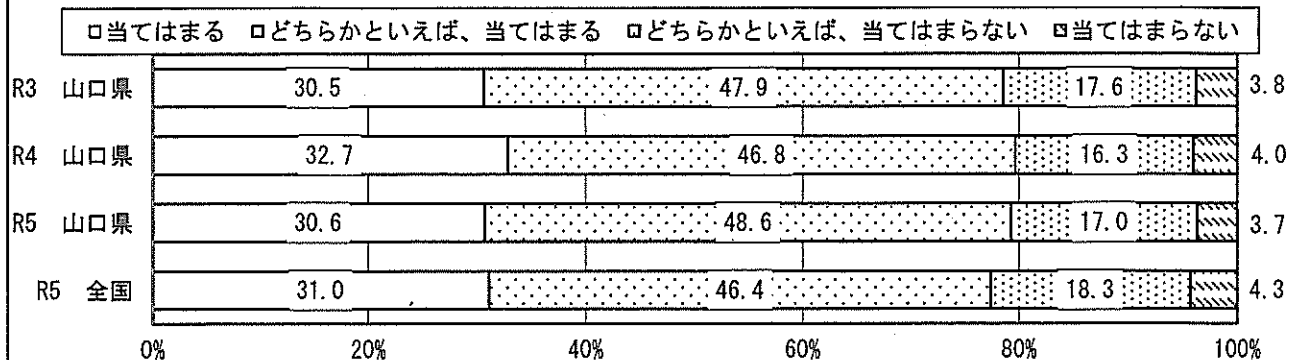
- 当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない
- 学級の生徒との間で話し合う活動を行っていない
- どちらかといえば、当てはまる
- 当てはまらない



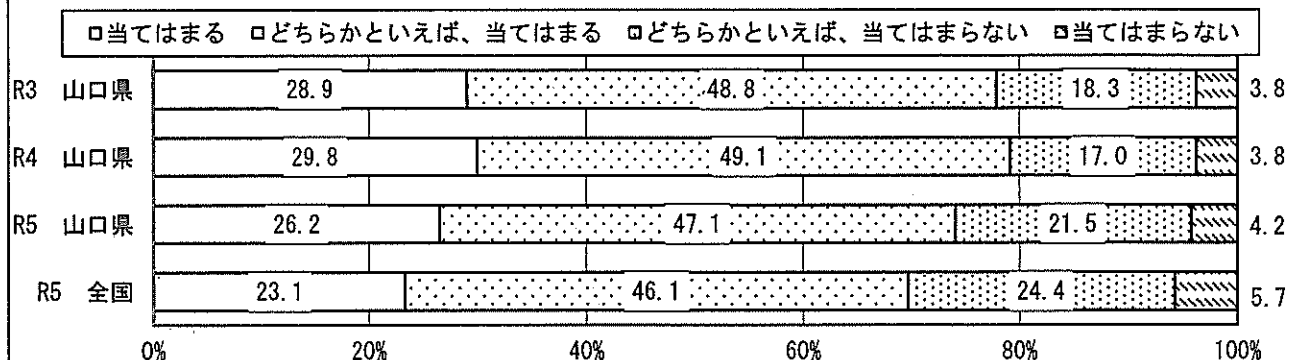
オ 学習内容を見直し、次の学習につなげる

○ 学習した内容について見直し、次の学習につなげることができる児童生徒の割合は、小学校は全国とほぼ同程度であり、中学校は全国と比べて高い。

【小学校】（37）学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができますか



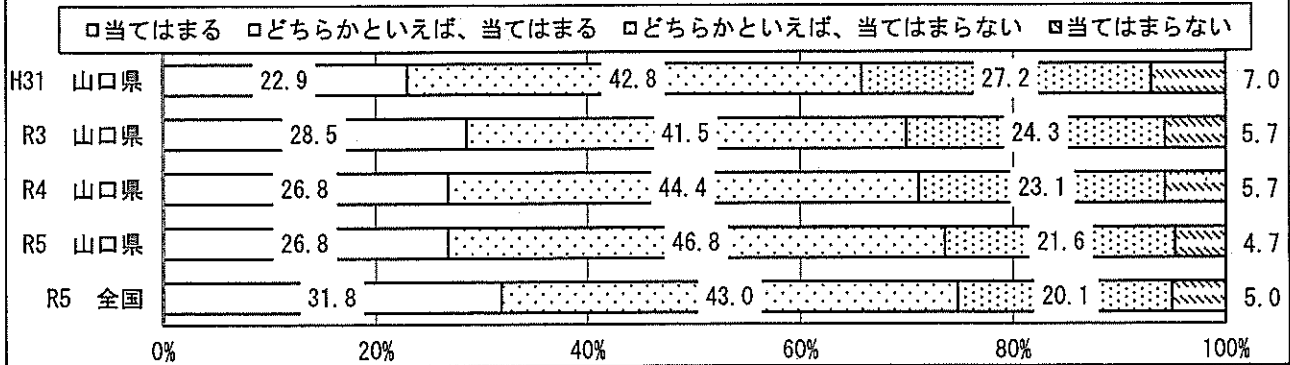
【中学校】（41）学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができますか



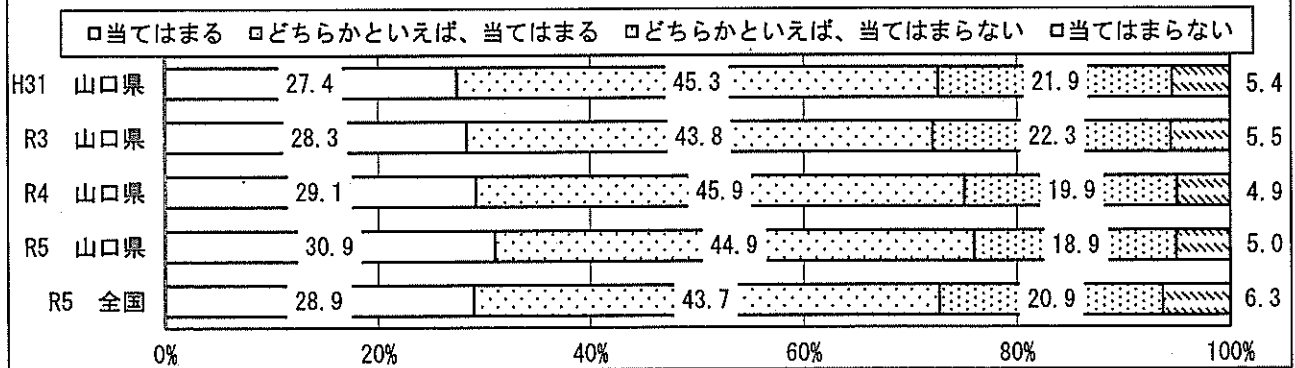
カ 総合的な学習の時間での情報収集や発表等の学習活動

- 小学校では、総合的な学習の時間に、自分の課題を立てて情報収集したり、発表したりするなどの学習活動に取り組む児童の割合は、全国と比べて低い。
- 中学校では、前年度に比べて増加し、全国と比べても高い。

【小学校】（39）総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる



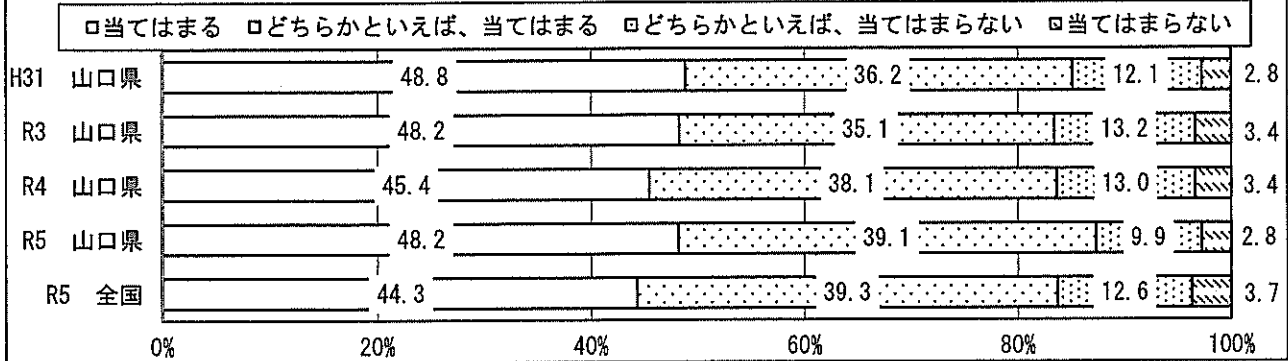
【中学校】（43）総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる



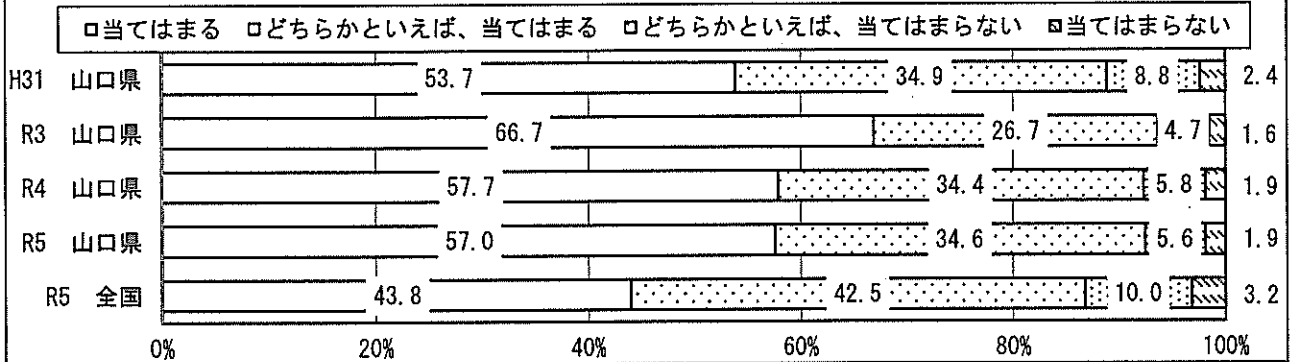
キ 道徳の時間で考えを深める、グループで話し合う

○ 「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」に「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。

【小学校】（４２）道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる



【中学校】（４６）道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる



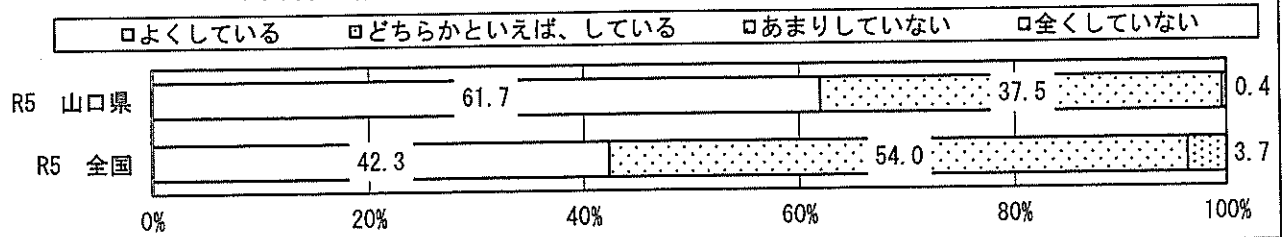
(2) 学校質問紙の結果

① 学校運営

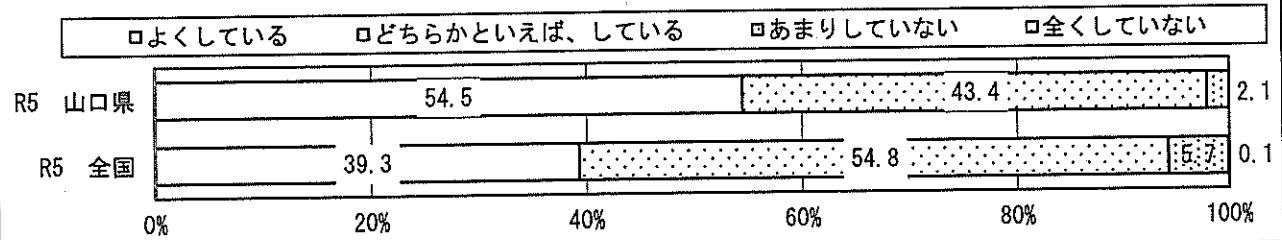
ア 各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように、教育課程表を作成

○ 教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について、各教科等の教育目標や内容の相互関係が分かるように作成している小中学校の割合は、全国と比べて高い。

【小学校】 18 教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成している。



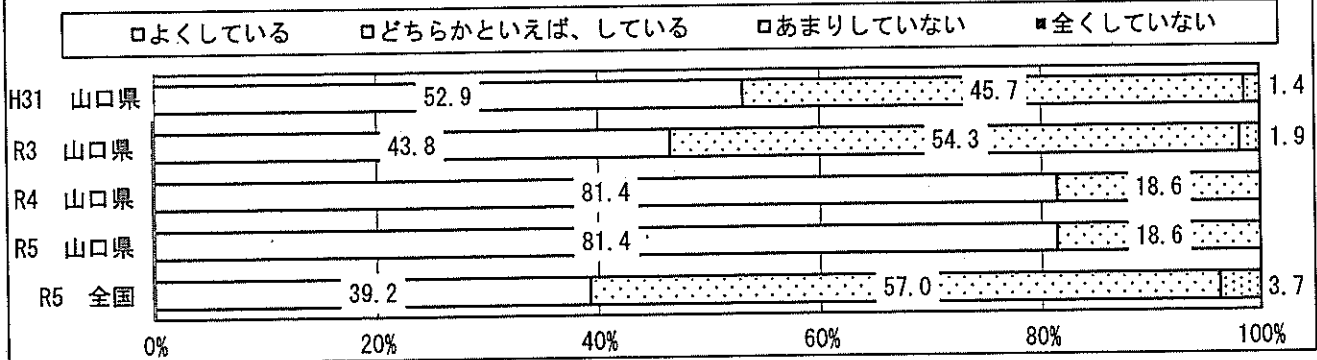
【中学校】 18 教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について、各教科等の教育目標や内容の相互関係が分かるように作成している



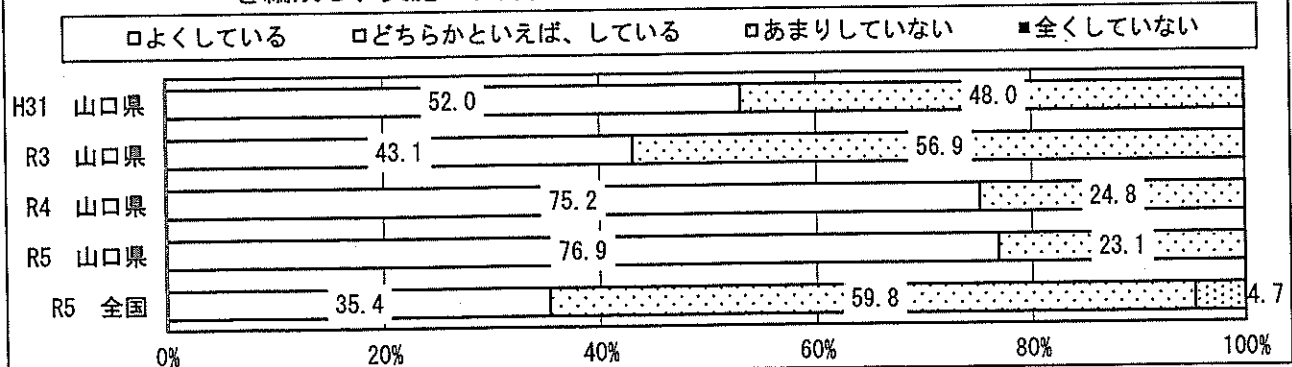
イ 子どもの姿や地域に関するデータ等に基づいたPDCAサイクルの確立

○ 児童生徒の姿や地域の現状に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している小中学校の割合は、全国と比べて高い。

【小学校】 19 児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している



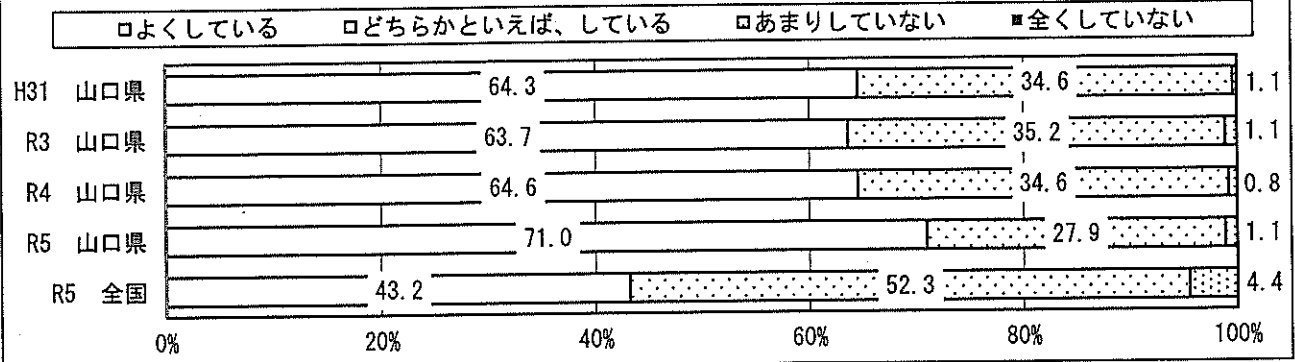
【中学校】 19 生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している



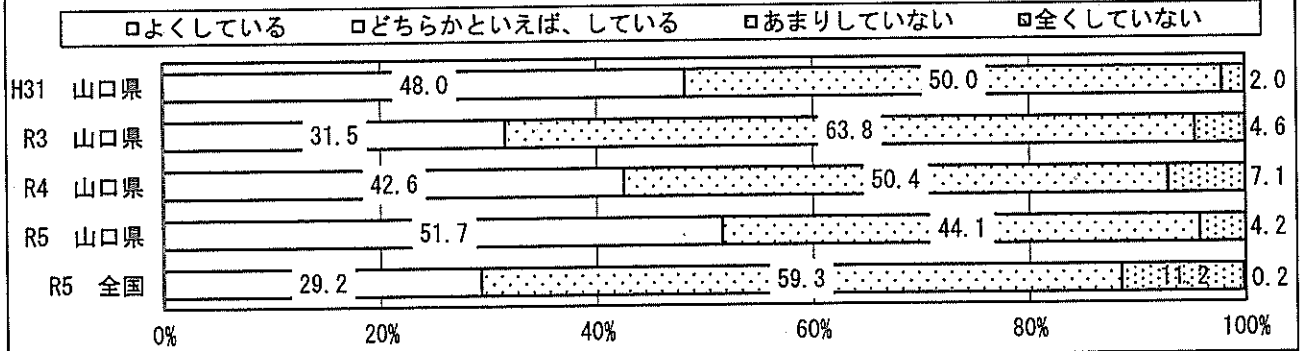
ウ 教育活動に必要な人的・物的資源等の活用

○ 指導計画の作成に当たっては、教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源等を地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている小中学校の割合は、全国と比べて高く、前年度より増加している。

【小学校】 20 指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている



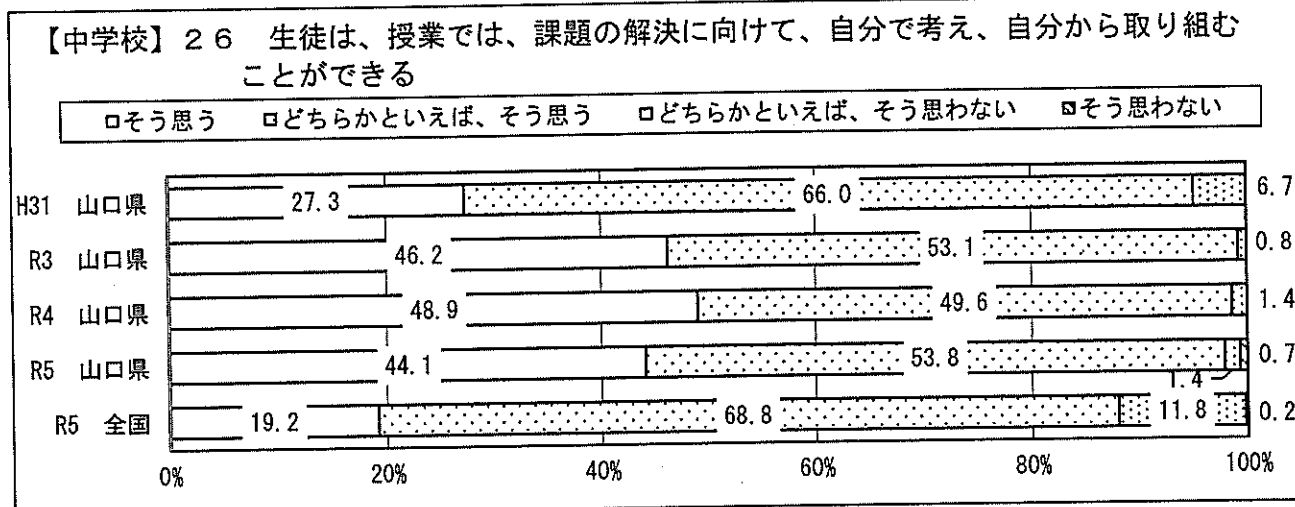
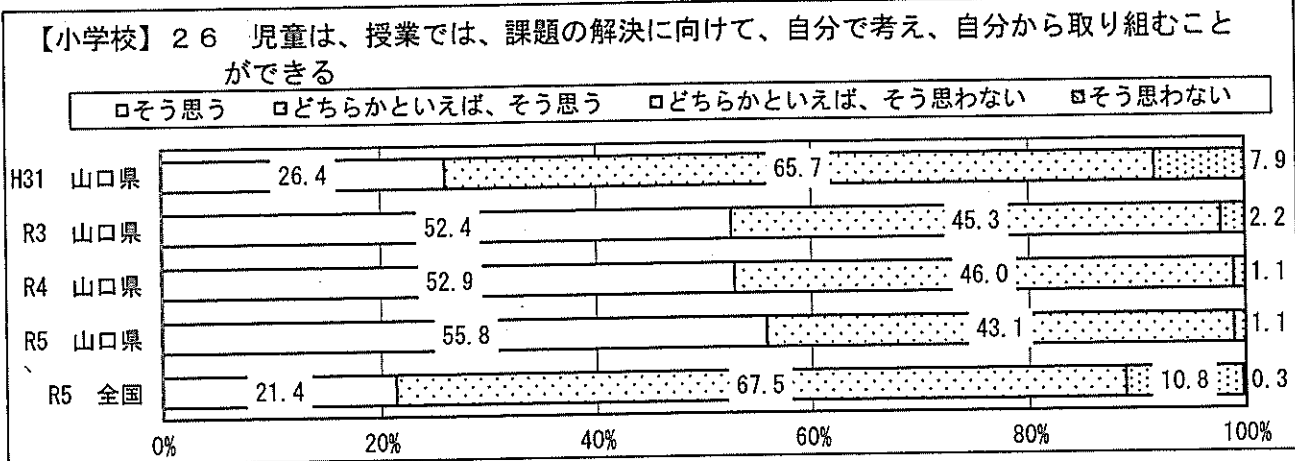
(中学校) 20 指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源などを、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている



② 学習指導

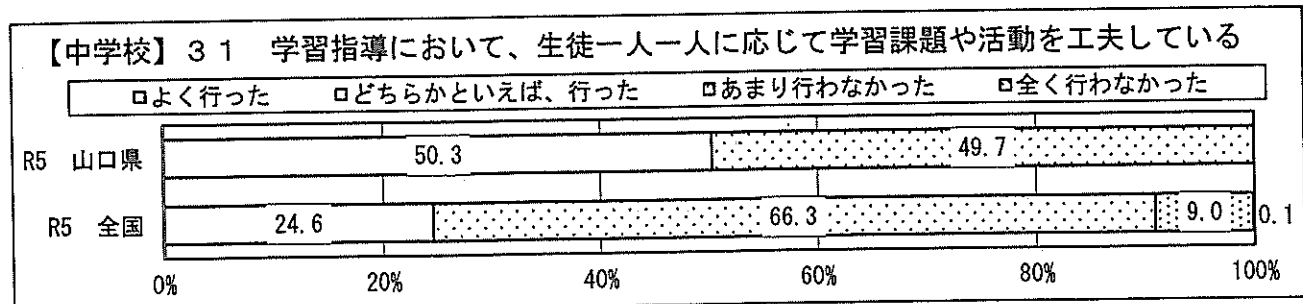
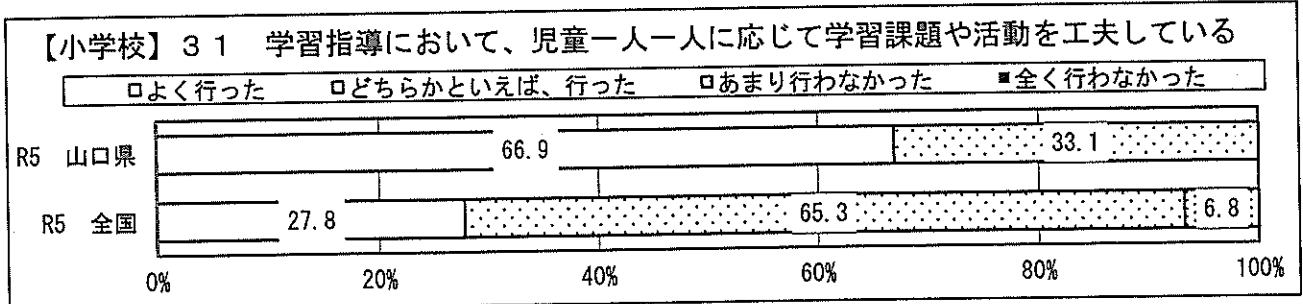
ア 授業では、児童生徒は自分で考え、自分から取り組む

○ 授業で課題の解決に向けて、児童生徒が自分で考え、自分から取り組むことができる小中学校の割合は、全国と比べて高い。



イ 学習指導において、児童生徒一人ひとりに応じた学習課題や活動の工夫

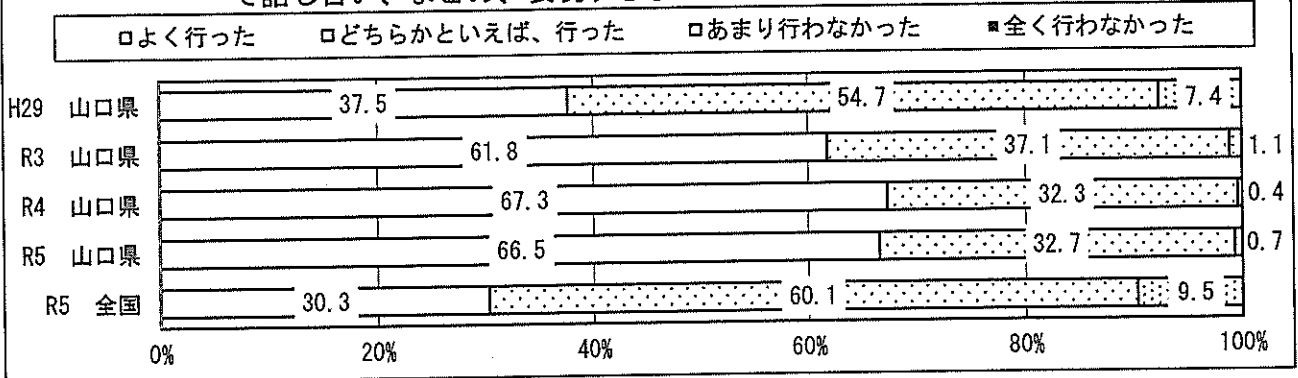
○ 学習指導において、児童生徒一人ひとりに応じた学習課題や活動を工夫した小中学校の割合は、全国と比べて高い。



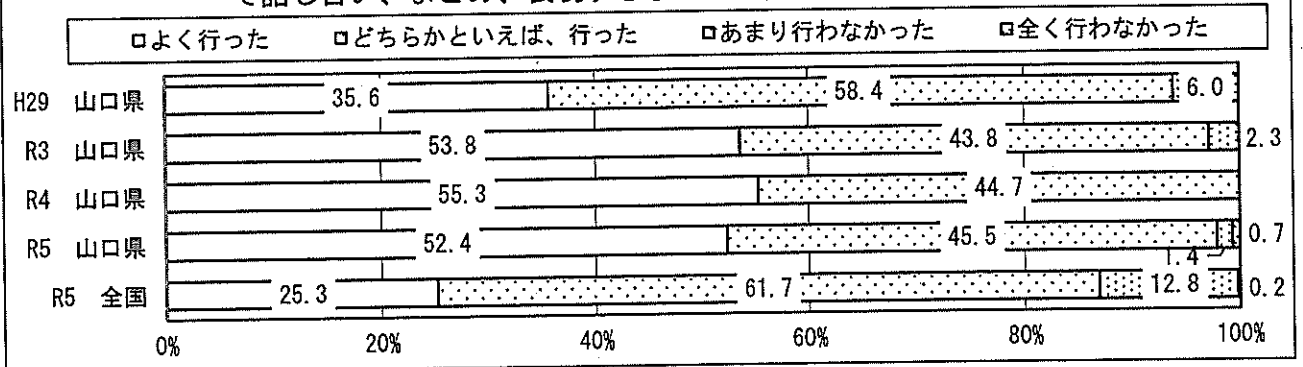
ウ 課題を設定し、話し合い、まとめ、表現する学習活動

○ 授業において、児童生徒が自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた小中学校の割合は、全国と比べて高い。

【小学校】 33 授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた



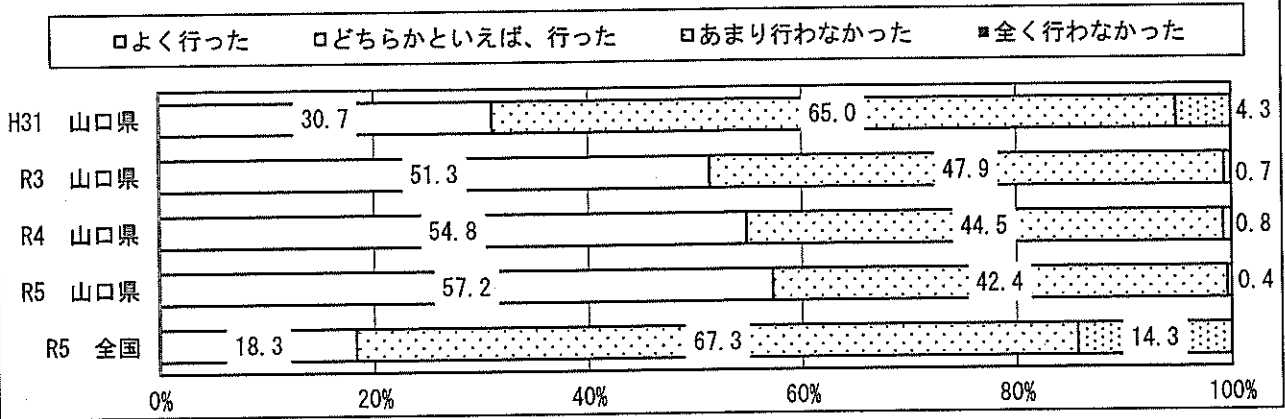
【中学校】 33 授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた



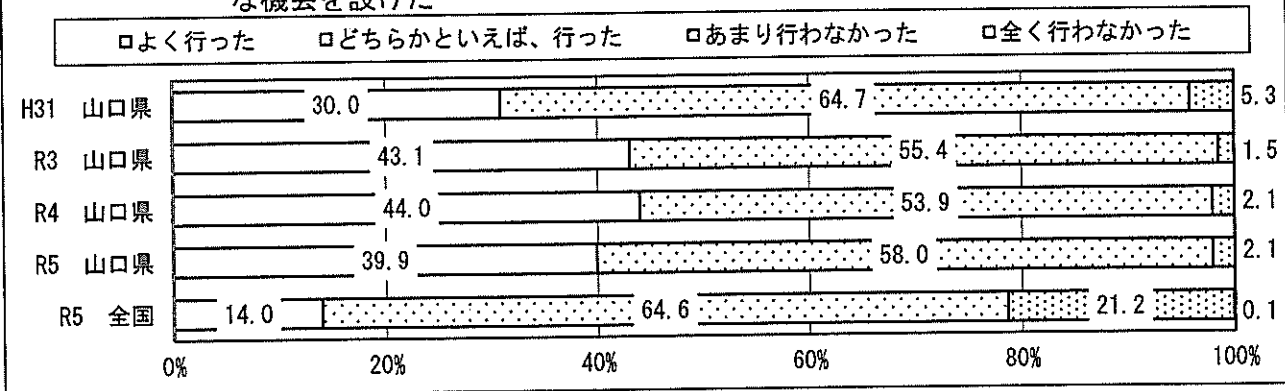
エ 各教科等で身に付けたことを、課題解決に生かす機会の設定

○ 各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた小中学校の割合は、全国と比べて高い。

【小学校】 35 各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた



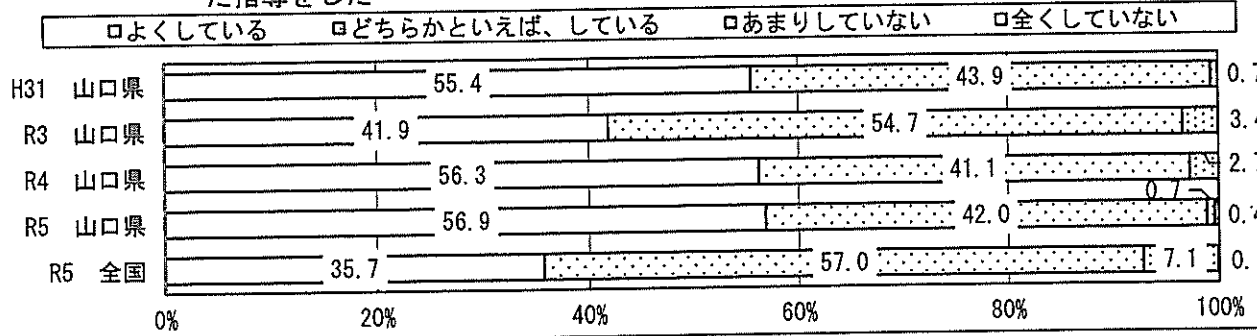
【中学校】 35 各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた



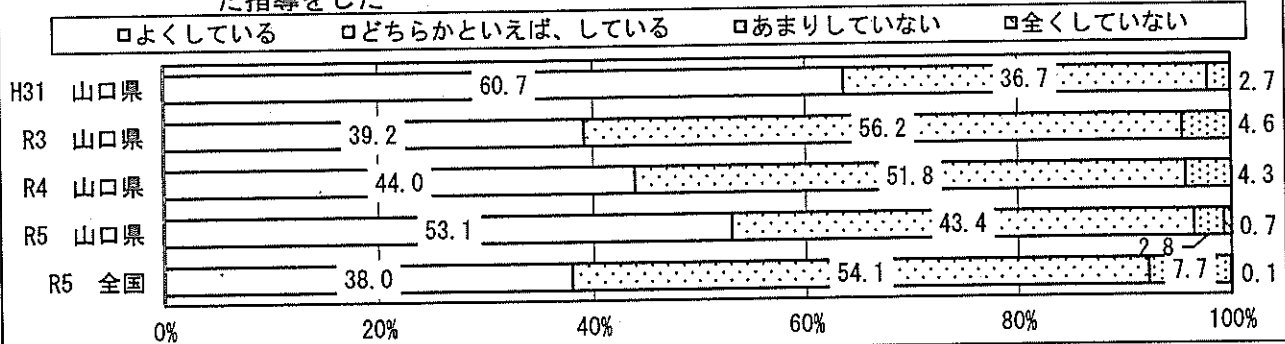
オ 総合的な学習の時間における指導

○ 総合的な学習の時間に、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をした小中学校の割合は、全国と比べて高い。

【小学校】 37 総合的な学習の時間に、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をした



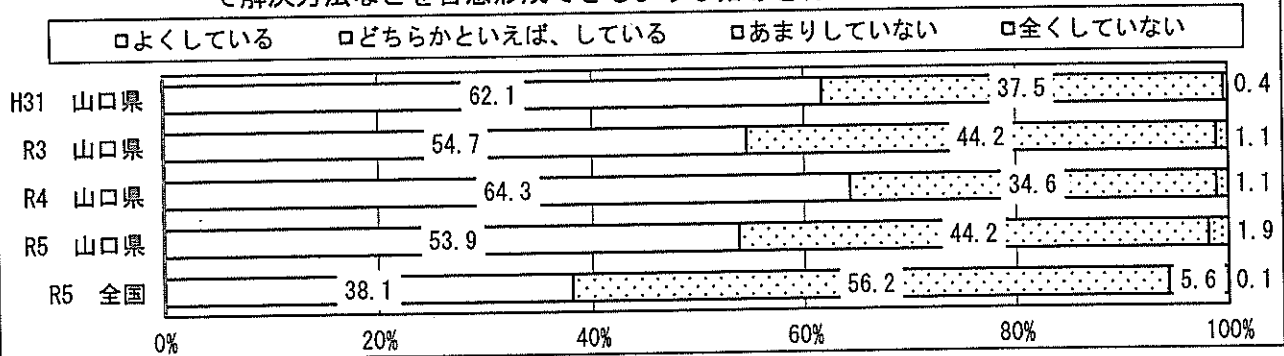
【中学校】 37 総合的な学習の時間に、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をした



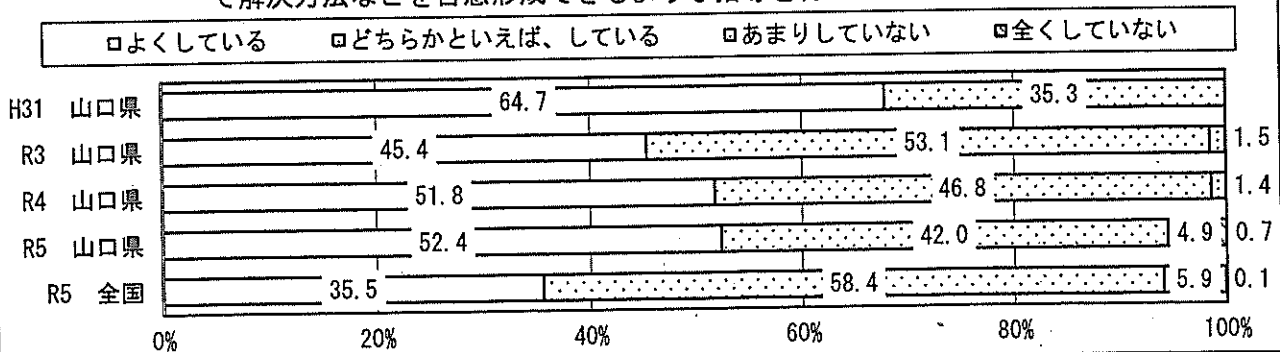
カ よりよい学級生活のために話し合い、合意形成する指導

○ 学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成する指導を行っている小中学校の割合は、全国と比べて高い。

【小学校】 38 学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成できるような指導を行っている



【中学校】 38 学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成できるような指導を行っている

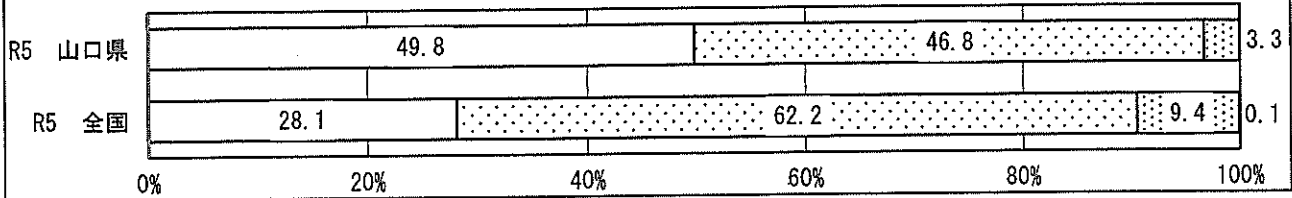


キ 学習評価による指導改善及び学習改善

○ 学習評価の方針を示した上で、児童生徒の学習評価の結果を、その後の指導改善や学習改善に生かすことを心がけた小中学校の割合は、全国と比べて高い。

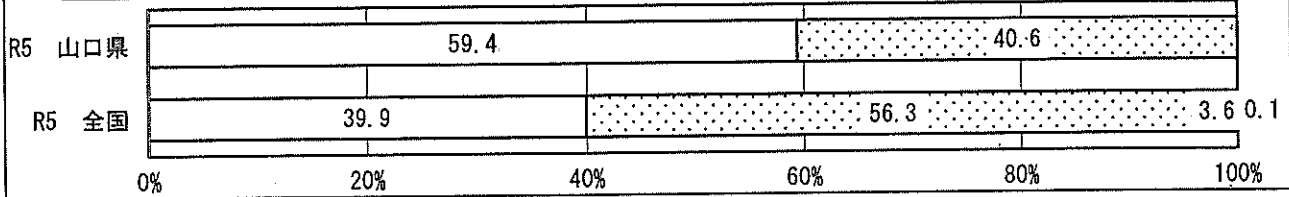
【小学校】 4 1 学習評価の方針を児童に示した上で、児童の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かすことを心がけましたか

□ そう思う □ どちらかといえば、そう思う □ どちらかといえば、そう思わない □ そう思わない



【中学校】 4 1 学習評価の方針を生徒に示した上で、生徒の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や生徒の学習改善に生かすことを心がけましたか

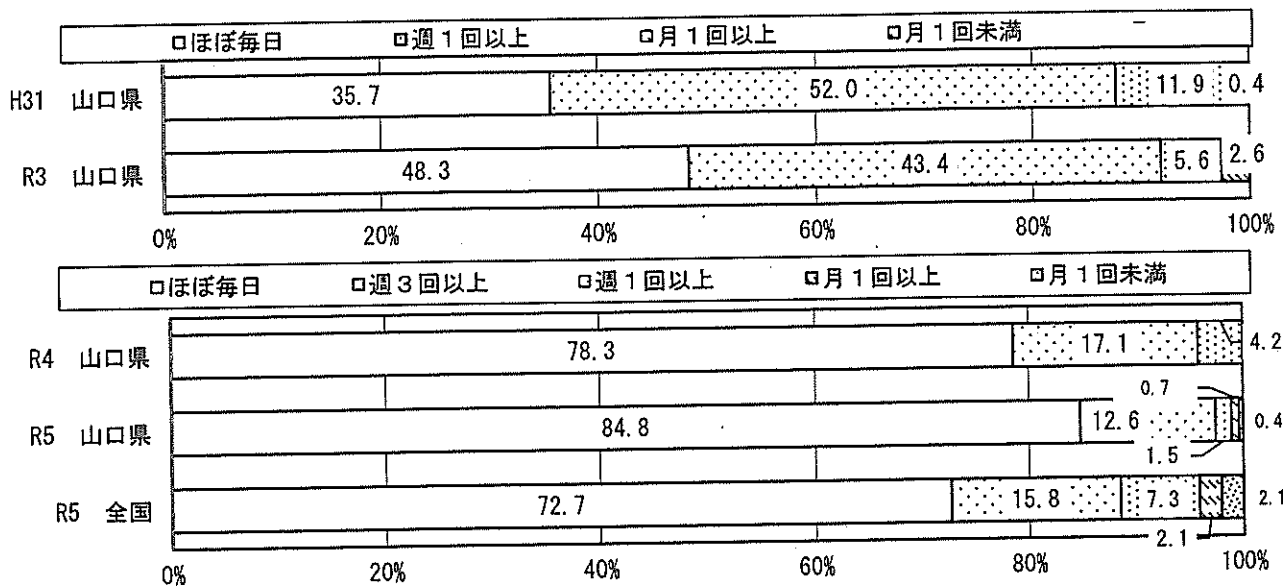
□ そう思う □ どちらかといえば、そう思う □ どちらかといえば、そう思わない □ そう思わない



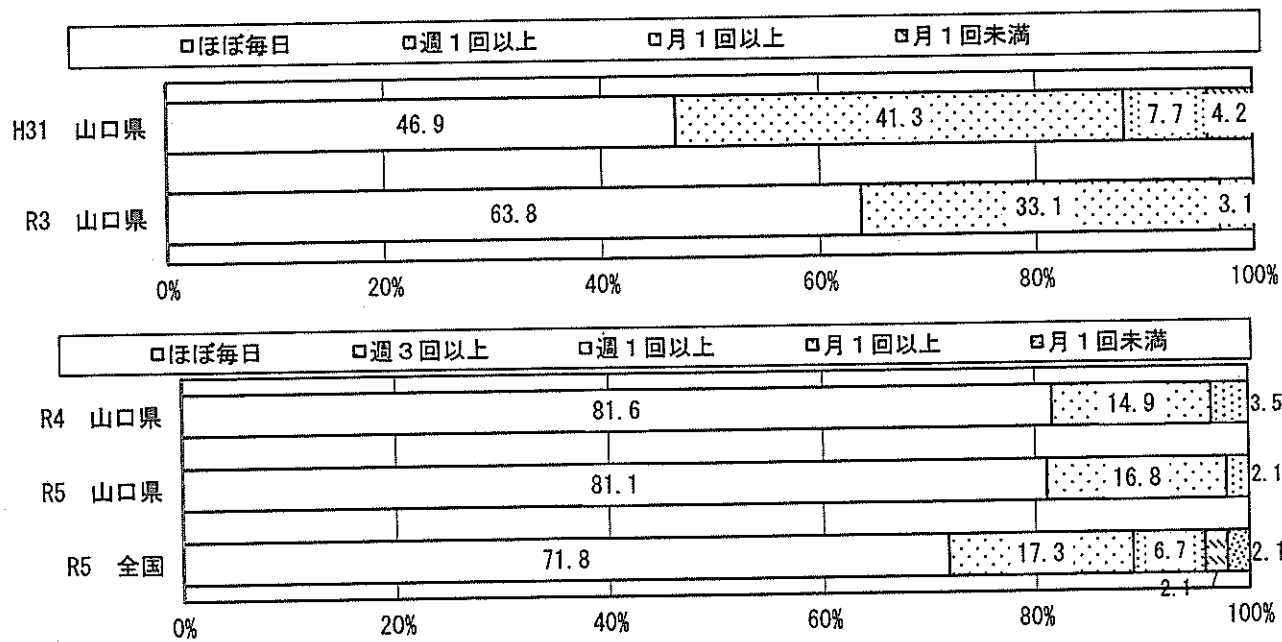
ク 大型提示装置等のICT機器を活用した授業

○ 教員が大型提示装置等のICT機器を活用した授業を1クラス当たりほぼ毎日行った、と回答した小中学校の割合は、全国と比べて高い。

【小学校】52 教員が大型提示装置等のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか



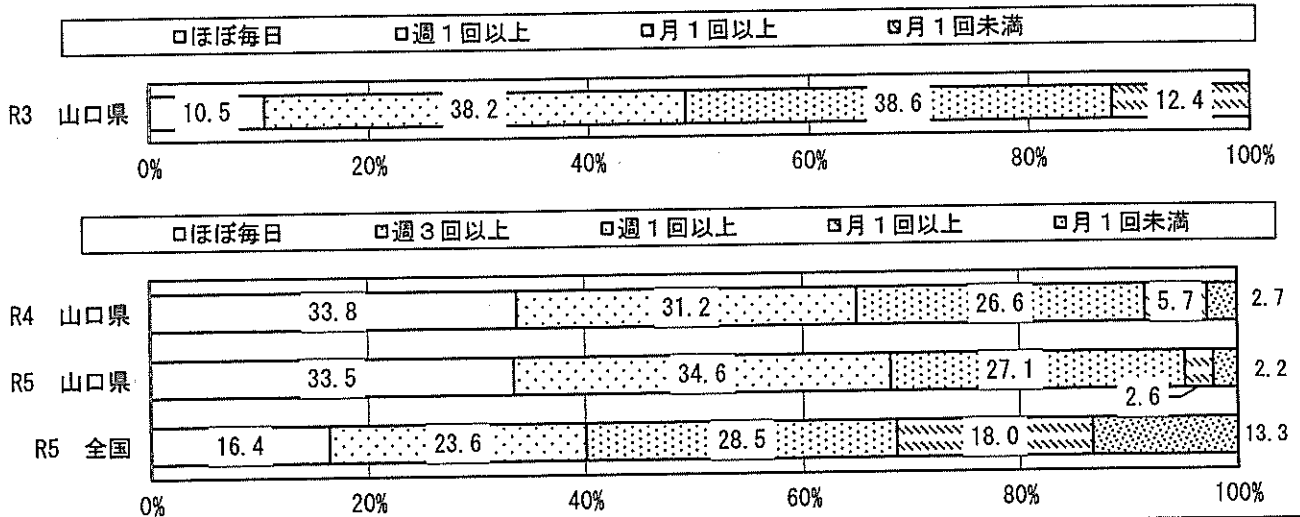
【中学校】60 教員が大型提示装置等のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか



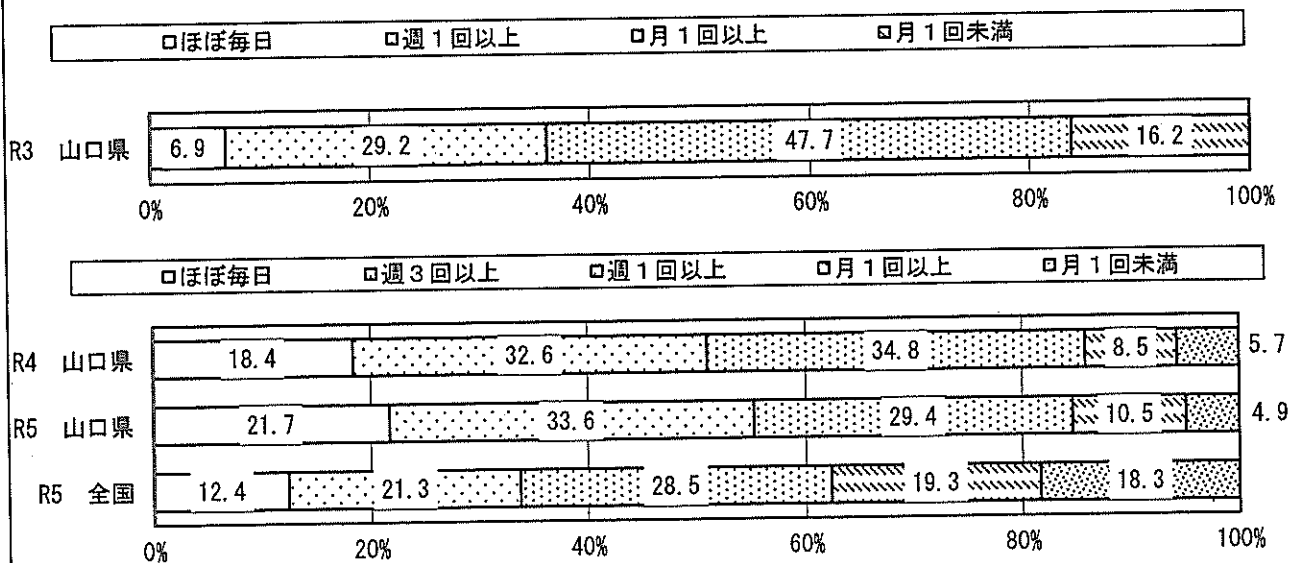
ケ ICT機器を活用した児童生徒同士のやりとり

○ 児童生徒がやりとりする場面で、PC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用している、と回答した小中学校の割合は、全国と比べて高い。

【小学校】 59 児童同士がやりとりする場面で、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



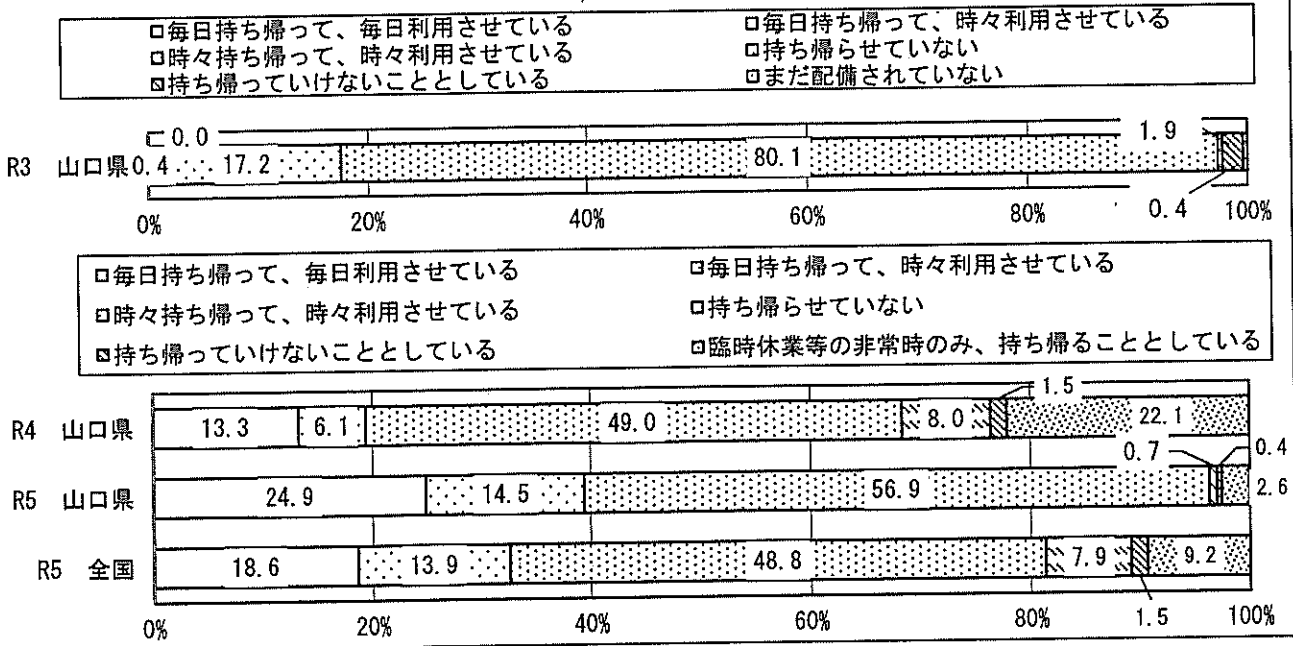
【中学校】 67 生徒同士がやりとりする場面で、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



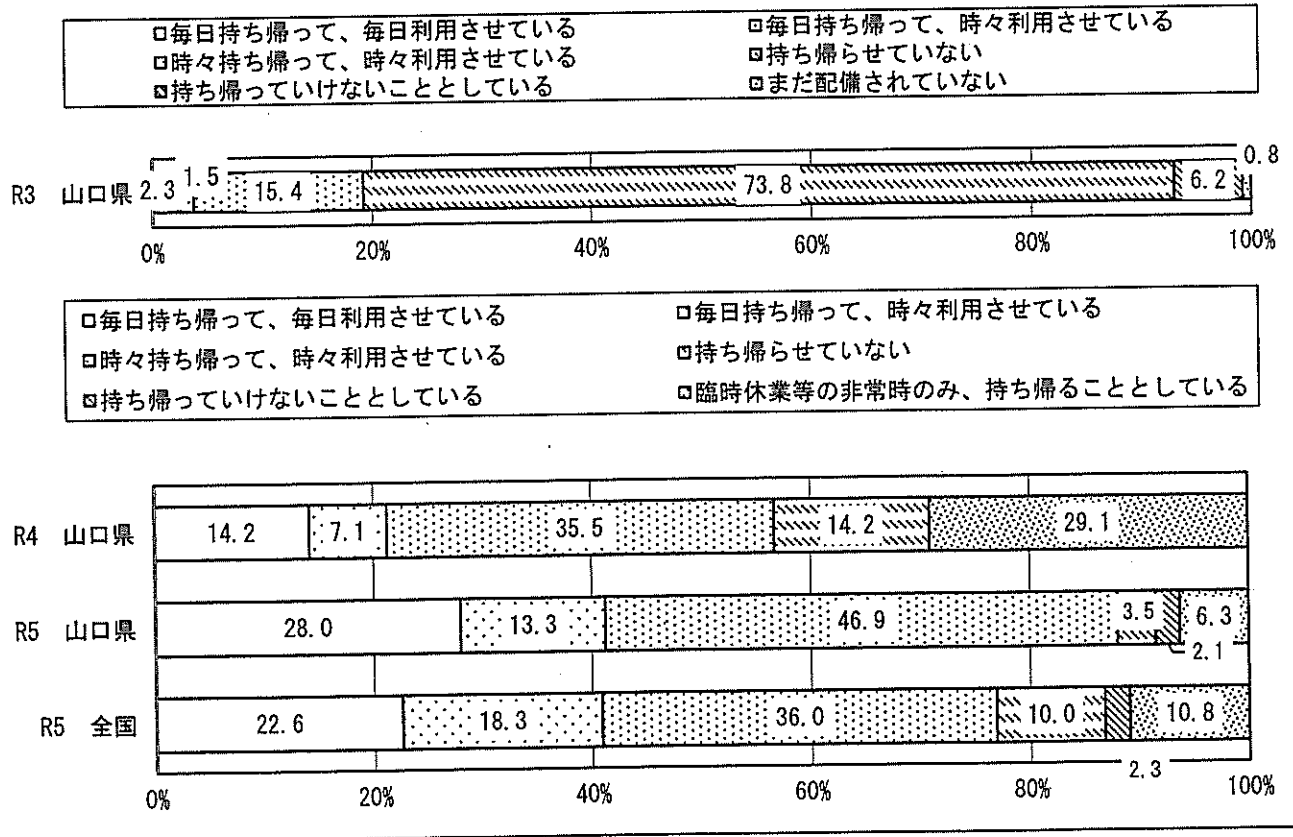
コ 配備された一人一台端末の家庭での利用

○ 配備されたPC・タブレットなどの端末を毎日家庭に持ち帰り毎日利用している、と回答した小中学校の割合は、増加傾向にあり、全国と比べて高い。

【小学校】 63 あなたの学校では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか



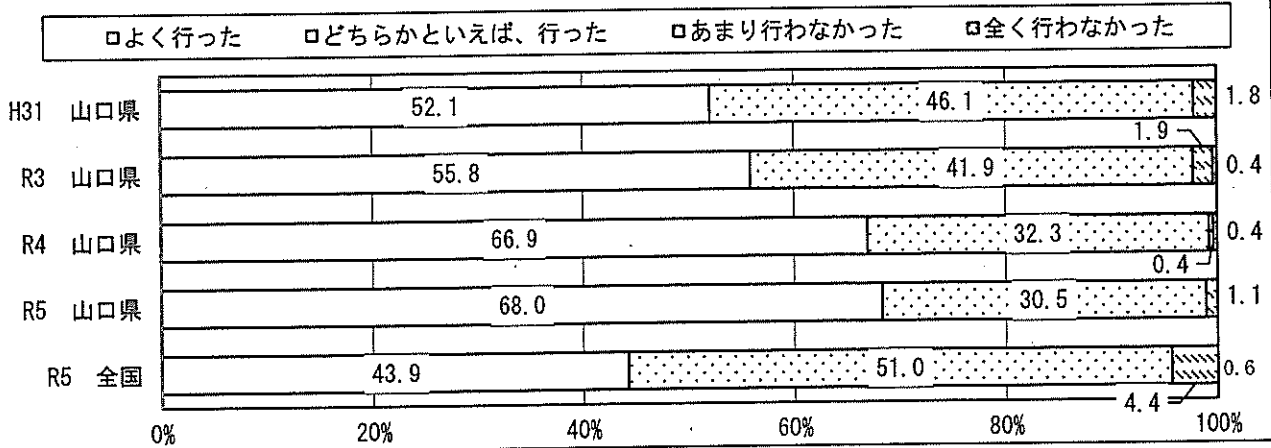
【中学校】 71 あなたの学校では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか



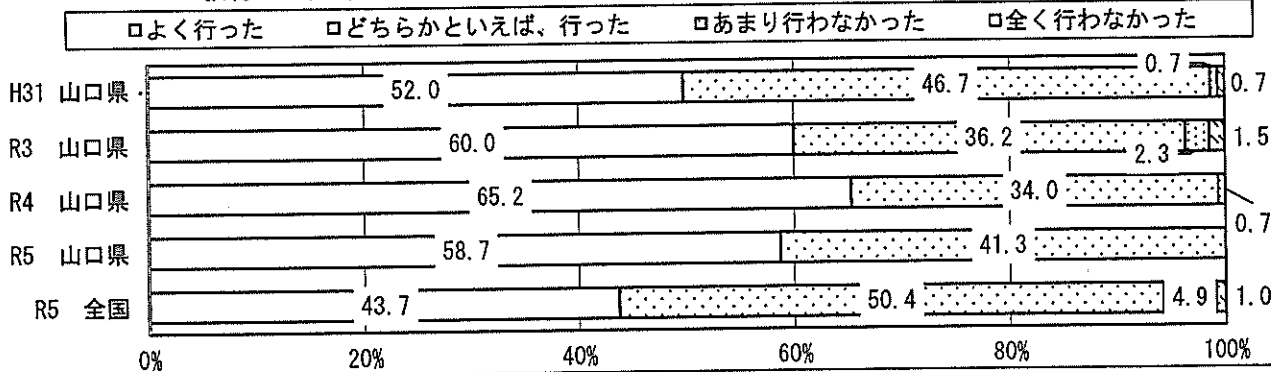
サ 特別支援教育についての理解と、児童生徒の特性に応じた指導の工夫

○ 教員が特別支援教育について理解し、授業の中で児童生徒の特性に応じた指導上の工夫を行った小中学校の割合は、全国と比べて高い。

【小学校】 6 6 学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、調査対象である第6学年の児童に対する授業の中で、児童の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明の仕方、教材の工夫等）を行いましたか



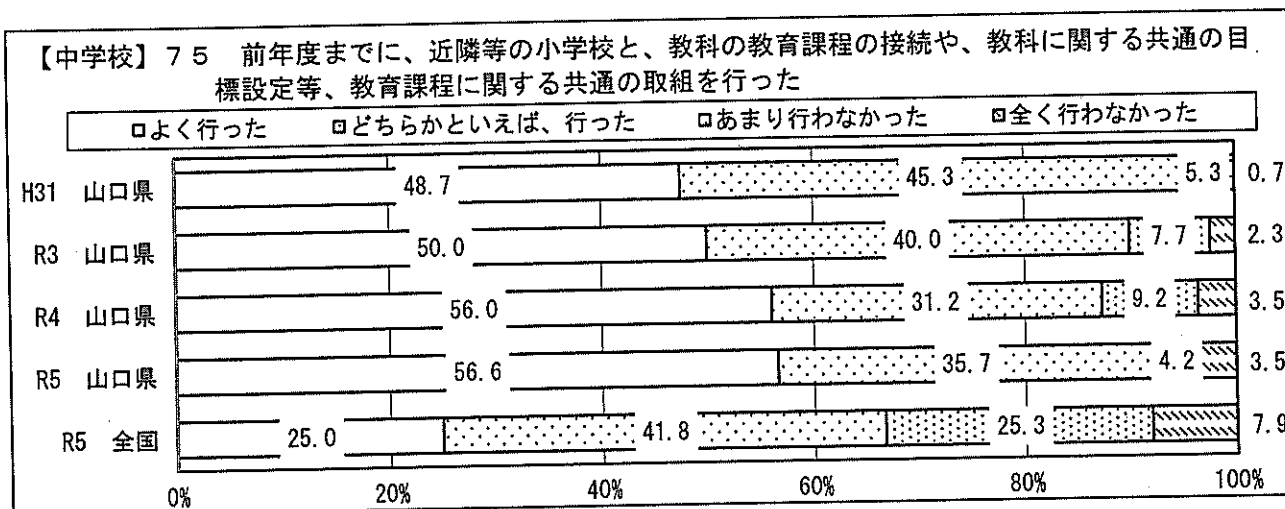
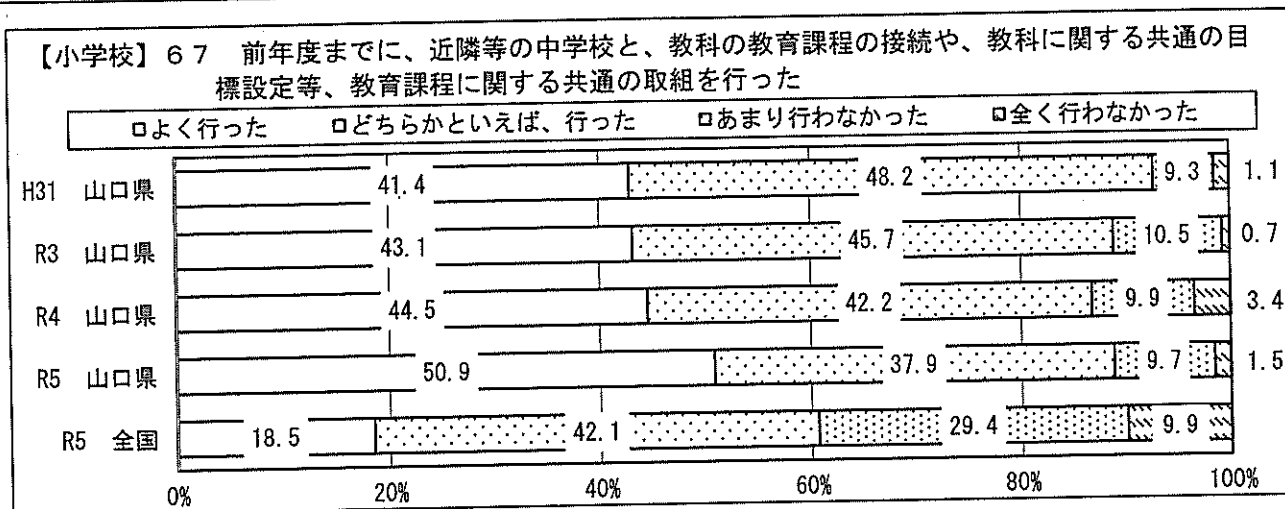
【中学校】 7 4 学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、調査対象である第3学年の生徒に対する授業の中で、生徒の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明の仕方、教材の工夫等）を行いましたか



③ 学校・家庭・地域との連携

ア 教育課程に関する小・中学校共通の取組

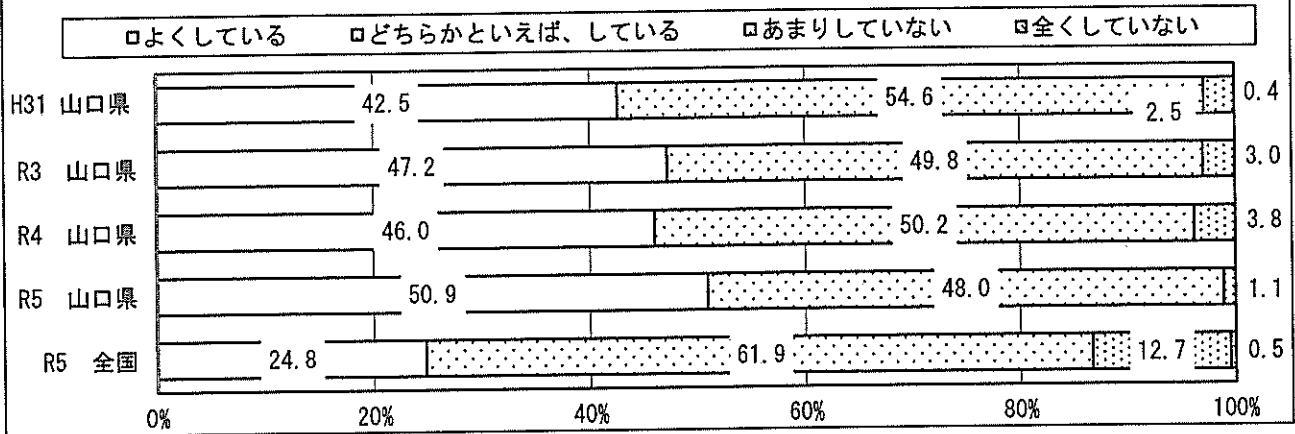
○ 近隣等の小（中）学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った小中学校の割合は、全国と比べて高く、増加傾向にある。



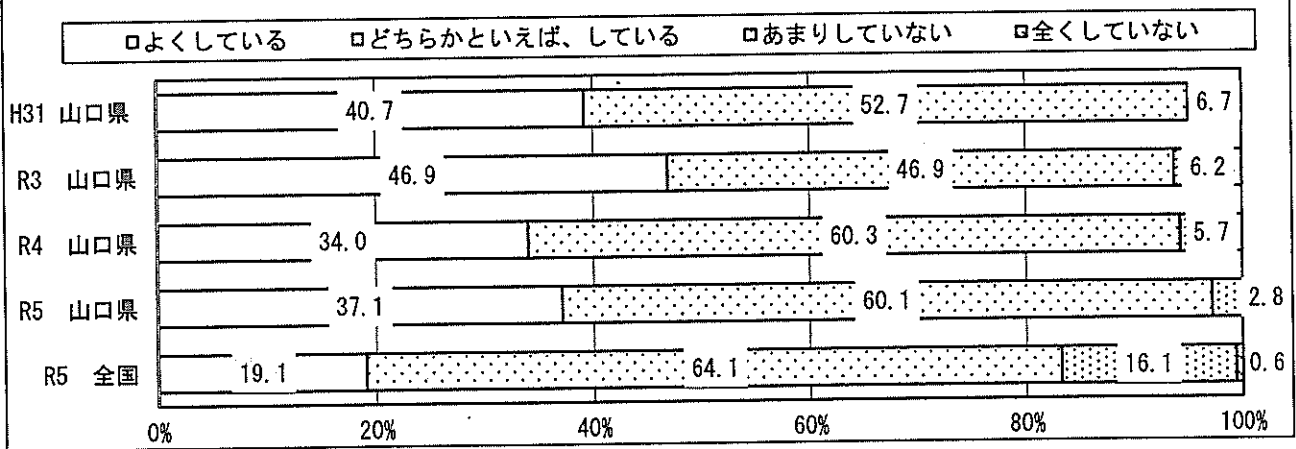
イ 教育課程の趣旨について家庭や地域と共有

○ 教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っている小中学校の割合は、全国と比べて高い。

【小学校】 71 教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか



【中学校】 79 教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか

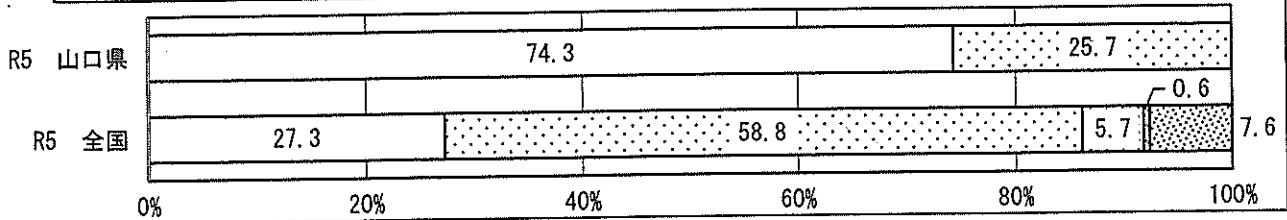


ウ 学校・地域・保護者の相互理解

○ コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者と相互理解を深めたと考える小中学校の割合は、全国と比べて高い。

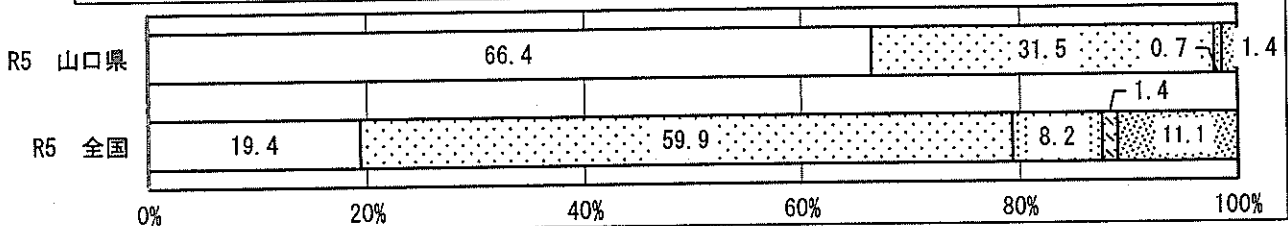
【小学校】 74 コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか

□ そう思う □ どちらかといえば、そう思う □ どちらかといえば、そう思わない
 □ そう思わない □ 取組を行わなかった



【中学校】 82 コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか

□ そう思う □ どちらかといえば、そう思う □ どちらかといえば、そう思わない
 □ そう思わない □ 取組を行わなかった

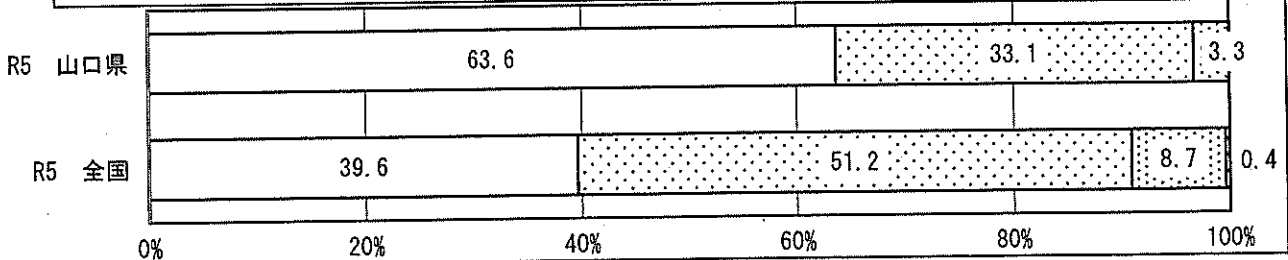


エ 家庭学習の課し方についての共通理解

○ 家庭学習の課題の課し方について、校内の教職員で共通理解を図った小中学校の割合は、全国と比べて高い。

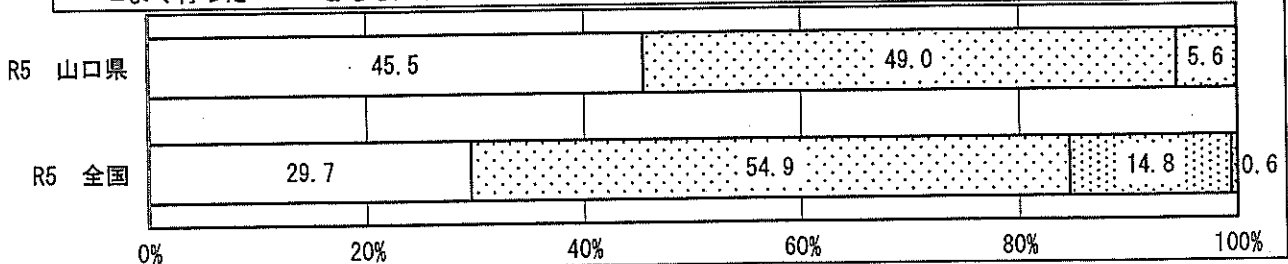
【小学校】 75 家庭学習の課題の課し方について、校内の教職員での共通理解を図る

□ よく行った □ どちらかといえば、行った □ あまり行わなかった □ 全く行わなかった



【中学校】 83 家庭学習の課題の課し方について、校内の教職員での共通理解を図る

□ よく行った □ どちらかといえば、行った □ あまり行わなかった □ 全く行わなかった

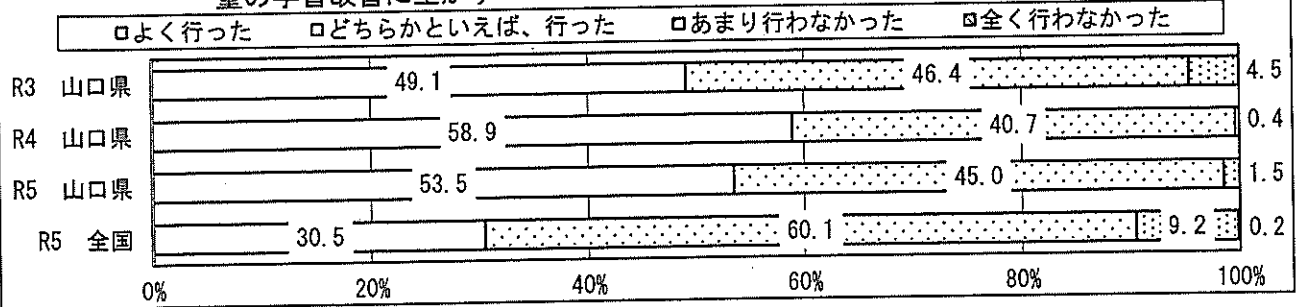


④ 家庭学習・調査結果の活用

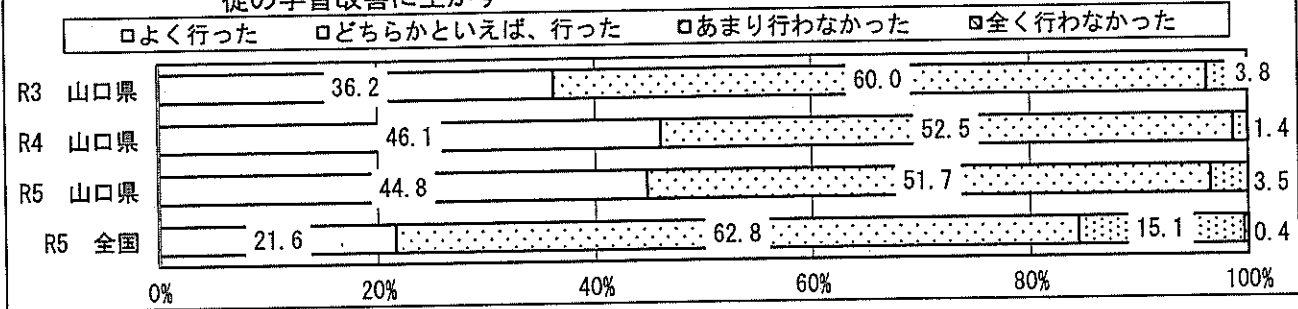
ア 児童生徒が行った家庭学習の課題について、指導改善や学習改善に生かす取組

○ 児童生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かす小中学校の割合は、全国と比べて高いものの、前年度より減少している。

【小学校】 77 学校では、児童が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かす



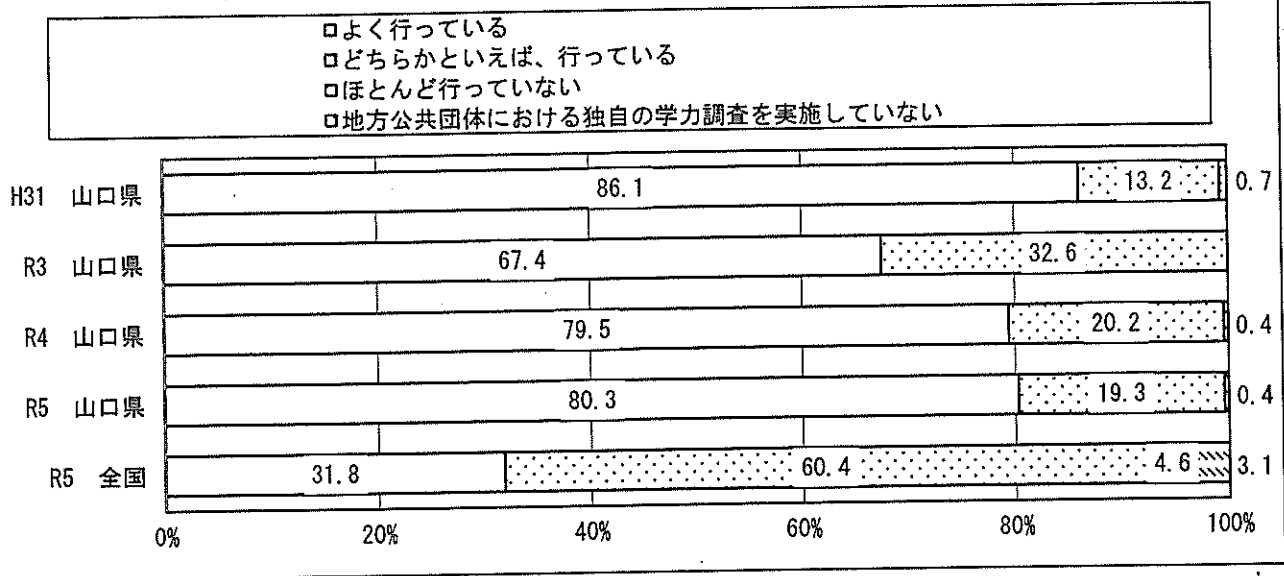
【中学校】 85 学校では、生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や生徒の学習改善に生かす



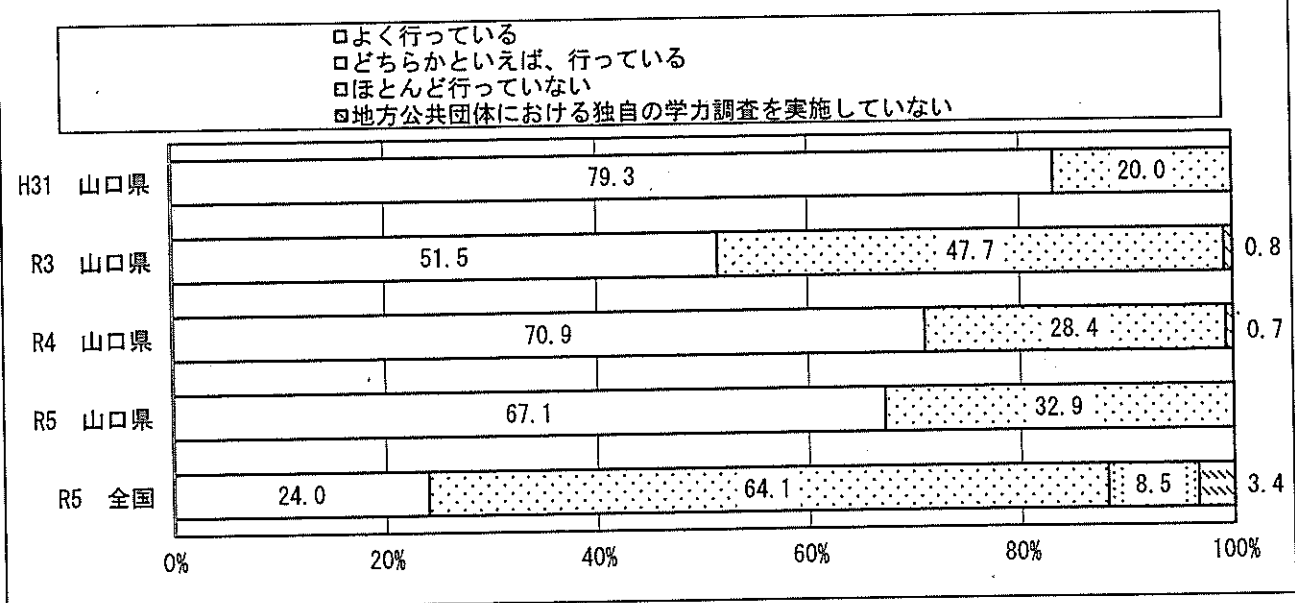
イ 全国学力・学習状況調査の問題の活用

- 全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っている小中学校の割合は、全国と比べて高い。

【小学校】 79 全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っている



【中学校】 87 全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っている



4 学力向上に向けた今後の取組

県教委、各市町教委、各学校が連携して、以下の二つに取り組む。

- ◆ 「やまぐち型地域連携教育」による家庭や地域との連携・協働を基盤とし、「学校の組織力の充実」「教員の授業力の向上」「学校・家庭・地域の連携力の強化」の三つの視点からの取組を推進するとともに、検証改善委員会からの客観的評価を受け、検証改善サイクルに取り組む。
- ◆ 学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の更なる充実を図り、児童生徒一人ひとりの確かな学力の定着と向上を図る。

※今回の調査結果を踏まえ、特に重点的に取り組む内容のみ記載

学校の組織力の充実

- ◆ 「やまぐち学習支援プログラム」の活用を軸にした組織的な指導体制づくり
 - ・多くの大人がかかわり、個に応じる「学び直し」の場づくりの促進
 - ・「やまぐち学習支援プログラム」基本プリントの解説作成による学力課題の解決・きめ細かな指導の充実
 - ・「やまぐち学習支援プログラム活用推進研修会」における好事例（組織的な取組、個に応じた指導など）の展開による各校の取組の促進
- ◆ 全校体制による学力課題の焦点化と年間2回の検証改善サイクルの活用
 - ・誤答分析を基にした学力課題の焦点化と解決の方策について、一連の流れを例示することによる各校の取組の促進
 - ・C B Tを活用した解答状況・解答分類の提供によるスピード感をもった指導改善の促進

教員の授業力の向上

- ◆ 「振り返り」に注目し、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業改善
 - ・児童生徒自身が、授業で分かった点やよく分からなかった点を見直し、自らの学習活動を振り返って、次の学習にいかそうとする場面（振り返り）を重視した授業改善の推進
 - ・「授業づくりと学習評価の手引き」の改訂・活用促進による授業力の向上強化
 - ・I C Tの活用等による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な実現
- ◆ 学ぶ姿勢と実践場면을重視した研修
 - ・研修受講者が自らの研修をマネジメントする仕組みづくり
 - ・研修後の実践場面における指導助言の充実

学校・家庭・地域の連携力の強化

- ◆ コミュニティ・スクールを核とした「学力向上」の取組の強化
 - ・多くの大人が児童生徒の学びを価値付け、学習意欲の向上をめざす日常的なユニット型研修等の推進
 - ・「学校・地域連携カリキュラム」に基づき、学校の学びと地域や社会をつなげ、学びの意味の実感を促す教育活動の推進
 - ・学校運営協議会における、学力課題の共有や課題解決に向けた熟議の促進
 - ・学校・家庭・地域における学力に関する情報共有に基づく学習習慣の確立
- ◆ 異校種間連携の充実による学習環境づくり
 - ・中学校区における学力向上の取組に関する連携・協働
 - ・「学校・地域連携カリキュラム」見直し等による小中一貫教育の推進
 - ・授業力向上実践研究校、小中高連携英語教育推進校・連携校などによる研究の推進